

マツダ財団支援

市民活動報告書

第39回（2023年度）

「マツダ財団支援 市民活動報告書 第39回（2023年度）」 発刊について

当財団では、設立趣意書に込めた「人々が共に繁栄を分かち合い心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与する」ことを目的に、「科学技術の振興」と「青少年健全育成」を2本の柱として様々な支援を行っています。

この報告書は、当財団より2023年度に支援を受けられ青少年健全育成に取り組まれた市民団体の活動を紹介するものです。

当該市民活動支援は、次代を担う子どもたちが、いろいろなことに興味を持ち多くの感動を得ることのできる体験機会の提供や地域社会のコミュニティづくり等に尽力されている非営利市民団体による諸々の活動に対して1985年度から実施しているものです。

対象分野

- ・ ボランティア育成
- ・ 地域連帯・コミュニティづくり
- ・ 若者の居場所づくり
- ・ 自然とのふれあい
- ・ 国際交流・協力
- ・ 科学体験・ものづくり

支援金総額 800万円 （10万円～45万円/団体）

支援件数 28件 （1団体は来年度に延期。また、コロナ禍で前々年度から延期された1団体を含んだ28件の活動報告となります。）

支援期間 2023/4/1～2024/3/31

活動地域 広島県・山口県

なお、報告内容は、各団体から提出されたものです。

も く じ

1. 活動報告書

No.	対象分野	活動名	団体名	活動拠点		支援金額 (万円)	ページ
1	地域連 帯・コミュ ニティづくり	人権紙芝居の読み聞かせ人材育成と普及活動	おんぶのまちプロジェクト	広島県	安芸郡府 中町	41	1
2	若者の居 場所づくり	結成15周年記念 和☆Rockライブ2023	Japanese Drum 和☆ Rock	広島県	呉市	30	3
3	地域連 帯・コミュ ニティづくり	誰もが主体的に関わり、発見がある場づくり	あいだす	広島県	呉市	40	5
4	地域連 帯・コミュ ニティづくり	子どもたちと作る矢野豪雨災害の紙芝居	矢野豪雨災害かみしばい製作 委員会	広島県	広島市安 芸区	17	7
5	地域連 帯・コミュ ニティづくり	多様性の中で各々が輝ける場や機会を作るコミュニ ティづくり ～インクルーシブ交流・あそびばの提供～	ぼこぼこトレイン	広島県	広島市安 佐南区	24	9
6	地域連 帯・コミュ ニティづくり	ふかわ子ども食堂	ふかわ子ども食堂	広島県	広島市安 佐北区	17	11
7	地域連 帯・コミュ ニティづくり	子どもの放課後学習支援	宿題やつつけ隊	広島県	広島市佐 伯区	31	13
8	地域連 帯・コミュ ニティづくり	昔遊びの伝承と指導 地域イベントの応援	やはた昔遊びの会	広島県	広島市佐 伯区	10	15
9	地域連 帯・コミュ ニティづくり	ヒロシマG7開催記念 ヒロシマ復興絵おと芝居公演 事業	一般社団法人 まち物語制作 委員会	広島県	広島市西 区	30	17
10	地域連 帯・コミュ ニティづくり	中学生がつくる冒険あそび場「ワンドふるたパーク」	このまちにくらしたいプロジェク ト	広島県	広島市西 区	10	19
11	地域連 帯・コミュ ニティづくり	妙聲寺ほのぼの寺子屋	妙聲寺ほのぼの寺子屋	広島県	広島市西 区	10	21
12	地域連 帯・コミュ ニティづくり	子ども食堂の運営	「うつくしの杜」子ども食堂	広島県	広島市中 区	15	23
13	科学体 験・ものづ くり	ものづくりチャレンジラボ！ ～科学のふしぎを楽しみ、失敗から学ぶ～	子どもとつくる科学遊び研究会	広島県	広島市東 区	24	25
14	若者の居 場所づくり	グローバル時代に、夢を持って自分らしく生きていく力を 育む小学生のための放課後インターナショナルスクール	みんなの家 House For All	広島県	広島市南 区	30	27
15	自然との ふれあい	20周年記念事業	NPO法人 ほしはら山のがっ こう	広島県	三次市	45	29
16	地域連 帯・コミュ ニティづくり	和げん「新月マルシェ」&お出かけ「満月マルシェ」	口和「新月マルシェ」の会	広島県	庄原市	24	31
17	地域連 帯・コミュ ニティづくり	輛から始める！子ども主体の地域診断プロジェクト	輛のくらしの診療所	広島県	福山市	30	33
18	科学体 験・ものづ くり	「福山のぼら」でお香開発	子どもが科学に親しむ場を創 る会	広島県	福山市	30	35
19	地域連 帯・コミュ ニティづくり	高校生マイプロジェクトアワード広島県Summit	一般社団法人 まなびのみな と	広島県	豊田郡大 崎上島町	45	37
20	地域連 帯・コミュ ニティづくり	デジタルを活用した生徒と住民参画型の自転車マップ づくりと交通安全教育	うべ交通まちづくり市民会議	山口県	宇部市	20	39
21	地域連 帯・コミュ ニティづくり	ふくろう公園インクルーシブday	遊びと育ちのインクルーシブ架 け橋会	山口県	岩国市	30	41

22	自然とのふれあい	島田川流域と海を結ぶSDGsアクションパートⅡ	ひかりエコメイト	山口県	光市	30	43
23	地域連帯・コミュニティづくり	山口市在住の高校生を対象とした地域課題を解決するための実践プロジェクト	山口トッパーナープロジェクト(YTP)	山口県	山口市	45	45
24	若者の居場所づくり	体験は学びのDIY 孤立解消・繋がる支援	一般社団法人 Happy Education	山口県	山口市	40	47
25	若者の居場所づくり	美祢市 軽音楽部	美祢市軽音楽部	山口県	美祢市	44	49
26	地域連帯・コミュニティづくり	中学校地域部活動に伴うバドミントン教室	地域総合型スポーツクラブ防府	山口県	防府市	28	51
27	地域連帯・コミュニティづくり	防府市の子育て応援隊	子育て応援隊 ままはあと	山口県	防府市	16	53
28	地域連帯・コミュニティづくり	島の寺子屋	寺子屋ユウコチャングム	広島県	廿日市市	38	55

2. 贈呈式	57
3. オンライン交流会	60
4. オンラインサロン	61
5. 支援団体News	62
6. 成果報告会	63
7. 公募～報告書冊子発行までの流れ	66
8. 応募&採択に関するデータ	67

活動名	No. 1	団体名	おんぷのまちプロジェクト
おんぷのまちプロジェクト		活動拠点	安芸郡府中町
		代表者	中村 由利江
		支援金額	41万円

団体紹介

結成時期：2021年7月
 構成メンバー：中村代表、府中町内人権擁護委員、音楽家、劇団員、学校支援員、中村さんの応援者8人
 結成の目的：人権啓発紙芝居のデジタル化、音楽制作、読み聞かせ後継者の育成
 活動方針：中村さんが作成した人権紙芝居をデジタル化し、読み聞かせ者の人材育成と普及活動を行い次世代に人権紙芝居を引き継いでいく。

活動概要

4月：歴史民俗資料館ギャラリーで、「おんぷのまちにはるがきた♪」展を開催
 6月：打ち合わせ会議 今年度の活動について話し合い
 ・8月に今年度の保育施設での人権紙芝居に使用する折り紙制作中学生ボランティアを募集する
 ・人材育成は、専門家に依頼して読み聞かせ講座を行う
 ・紙芝居のデジタル化は、今年度も障害者支援のため就労支援施設のデジタルバスターに依頼
 オリジナルは、枚数が多いため中村さんが作成しなおす
 ・音楽制作は、ヒューマンソンググループ ザ・わたしたちに依頼する
 ・ヒューマンフェスタでは間に合わないので、お披露目を別途考える
 8月：中学生ボランティアと保育施設で使用する折り紙制作
 8/8 府中南公民館 参加者 6人、8/10 府中公民館 参加者 4人
 10月：広島の人権擁護委員の研修会でおんぷのまちのものがたりを紹介、35人参加 各市町での活用を周知
 11月：ヒューマンフェスタブースでおんぷのまちのものがたりを紹介
 1月：第2部のお披露目会、読み聞かせ講座、来年度のに向けたプロジェクトについて打ち合わせ
 2月28,29日：お披露目会に向けた打ち合わせ、練習
 3月2日：「読み聞かせグループの交流会」で第2部「らーぼうとしーじいちゃん」お披露目（予定）
 3月27日：読み聞かせ講座開催（予定）

4月 歴史民俗資料館ギャラリー展



8月 中学生ボランティアと折り紙制作





◆実施に伴う効果

人権紙芝居のデジタル化により、広い場所で多人数での読み聞かせが可能となった。
また、YouTube動画視聴も可能となり、より簡単に啓発と普及ができるようになった。
読み聞かせ講座により、人権紙芝居の読み手の育成ができた。（予定）

◆苦労した点

会員がそれぞれ、様々なボランティア活動をしているため、全員が集まって参加することが難しかった。
限られた予算内でデジタル化できる枚数の制限があり、既に作成している第2部の原作の作り直しがあったため、
第2部のデジタル化完成が遅くなり、お披露目会、読み聞かせ講座の開催がギリギリになった。

◆今後の課題・発展の方向性

第3部のデジタル化を進め1、2部と同様に音楽制作と共に行う。
デジタル化した三部作の啓発拡大を地元の高校生と企画を練り、高校生と共に啓発活動を行う。
3部作の完成により、おんぶのまちの音楽会を開催したい。

◆活動を終えての感想・意見等

「一人一人大切な命」をテーマに代表が制作し10年以上一人で活動した紙芝居が、マツダ財団様とたくさんの人の力により、次世代に繋ぐ紙芝居に広がりました。死をテーマにした第2部が完成し、生をテーマにした作成中の第3部まで、高校生のアイデアを頂きながら、全国に、あわよくば英訳を高校生に依頼して読んでいただき、それを動画にして、世界にひろげられるよう継続していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

活動名	No.2	団体名	Japanese Drum 和☆Rock
和☆Rock 結成 15 周年記念ライブ		活動拠点	呉市
		代表者	荒井 裕
		支援金額	30 万円

〈結成時期〉2008 年 広島文化学園大学の和太鼓同好会として結成。卒業後地域の団体として活動中。
 〈構成メンバー〉毎週火、土曜日 19:00 - 21:30 高校生から社会人（30 代）のメンバーで稽古を行う。
 〈結成の目的、活動方針等〉
 日本の伝統楽器である和太鼓の魅力を伝える活動を通じ、青少年の健全育成を目指している。また、子どもへの指導を行う教室も 2 つあり、稽古や発表会、コンクール出場他、お楽しみ会や勉強会なども企画し、居場所づくりにも繋がっている。子ども達の指導は、教室の卒業生で現在はメンバーである高校生たちが主となり行っており、学生がより若い世代の子ども達へ、自信をもって技術を継承していく良いサイクルができていると感じている。

活動概要

和☆Rock 結成 15 周年記念ライブ
〈実施日〉
 2023 年 9 月 3 日(日) 開場/12:30 開演/13:30 終演/15:30
〈場所〉
 呉信用金庫ホール (住所：呉市中央 3 丁目 10 番 1 号)
〈内容〉



- ・音響や照明を駆使したホール内でのパフォーマンス演奏を行い、オリジナル曲を中心にアンコールを含め 15 曲を演奏した。また、支援金により復活した和太鼓の初お披露目となり、MC でマツダ財団様による助成金で修繕をすることができた旨、伝えさせて頂いた。
- ・グッズや和太鼓用品などの販売、団体の歴史を感じられる展示を行った。
- ・ステージ終了後、子どもたちとともにお客様のお見送りを行い、直接お客様の感想を聞くことができた子どもたちの、嬉しそうな様子を見ることができた。

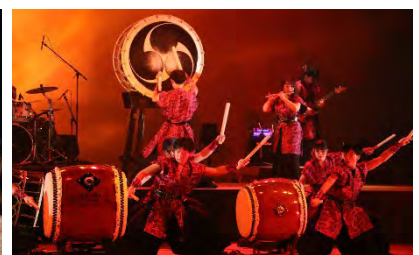
〈参加人数〉
 出演者 33 人/当日ボランティア（保護者）15 人 計 48 名
 来場者数/約 900 名



エントランスでのグッズ販売、展示の様子



MC 中での復活太鼓説明



演奏の様子/左に復活太鼓



開場前の行列



子ども達の元気な演奏



高学年の演奏に会場は大歓声でした



フィナーレ後、会場の皆さんと記念撮影



出演者での集合写真

◆実施に伴う効果

2014年より毎年自主公演ライブを開催し、和太鼓の魅力伝える活動を行っている。

今回は結成15周年の節目の周年行事として、数年ぶりに呉市内で一番大きなホールとなる「呉信用金庫ホール」での開催となり、メンバー同力を合わせて準備を行ってきた。稽古だけでなく、高校生の子も達が率先してエントランス内の展示物などの準備などを行い、自分たちで演奏会を作り上げる体験ができたと感じている。また、とあるお寺にて譲り受け、費用の問題から修繕できずそのままになっていた破れた古い和太鼓を、助成金を使用し無事に修繕することができ、当日大きな音と振動で会場を盛り上げていた。

◆苦労した点

毎年、自主公演ライブを開催するにあたり、一番の課題は集客である。

毎年市役所や市民センターの掲示板や、各地区の回覧板、店舗などへ広報物の掲示をお願いしている。

しかし、実際の演奏を見ていただく際に宣伝を行うのが一番効果を感じられ、コロナ明けすぐということもあり、演奏の機会が少なく、十分な宣伝が行えなかった。そのかわりSNSでの宣伝に力を入れ、効率的な方法を学ぶ事ができた。反省点としては、毎年3か月前には完成させているチラシ、ポスターなどの広報物の作成が遅くなってしまい、紙媒体での広報がひと月遅くなってしまったので、デザイン性も大切だが、より長く広報を行うため早め早めの作成を心がけたいと思う。

◆今後の課題・発展の方向性

今回15周年ということもあり、また学生でも気軽にご来場いただけるよういつもより入場料を安く設定させて頂いた。会場費や音響照明費も高騰しているため、会場の規模や入場料を毎回検討しながら、より多くの人に楽しんで頂けるような会を継続して行っていきたい。今回修繕させて頂いた和太鼓には、胴の部分に「公益財団法人マツダ財団」様の文字を刻ませて頂いた。和太鼓の皮は、叩けば叩くほどいい音になっていくので、日頃の稽古や演奏にてしっかりと使用させて頂きより良い音をお客様に楽しんで頂けるようにしていきたい。

20周年記念ライブでも是非使用したい。

◆活動を終えての感想・意見等

今回、15周年のお祝いとして大きなホールでライブが開催できたこと本当に嬉しく思っています。

また周年行事ということで何か特別なことがしたいと考えている時に、マツダ財団様の助成金の申し込みがあることを知り、無事採択頂けたこと、他の市民団体様と交流させて頂けたこと本当にありがたく光栄な事だと感じております。

助成金を頂いたことで活動の幅が広がり、お客様はもちろん、メンバーや教室の子も達に和太鼓の魅力、そして舞台に上がる経験、達成感を伝えることができました。今後も、継続してライブを計画し、和太鼓教室なども開催しながら、広島県内の日本文化の継承に努めて行きたいと思っています。

この度は、まことにありがとうございました。

活動名	No.3	団体名	あいだす
誰もが主体的に関わり、発見がある場づくり		活動拠点	呉市豊町
		代表者	大橋 まり
		支援金額	40万円
団体紹介	<p><結成の目的> 学育プロジェクトの拠点となる生涯学習の場、地域の人々の居場所づくり、ものづくりや色々なプロジェクトが生まれる場をつくりたいと考えている。</p> <p><活動方針> あいだすでは何かをはじめるとき、まずはそこにあるものでどうにかできないかと手を動かしてみることを大切にしている。そこにあるものを使ってつくることで、違う視点でものを見ることができ、新たな気づきがあると考えています。 また、上手いかわないことや失敗すること、間違えることを周りが肯定し、次はどのようにすれば上手くできるのかを考えることを大切にしています。</p>		
活動概要	<p><呉市子育て支援課の放課後子供教室の受け入れ>（隔週水曜日 15:00～17:00 毎回10名程度参加） 呉市子ども支援課と連携し、豊町の小学生を対象とした放課後の居場所づくりを行いました。 自分の興味や好奇心を実現できる場として、子どもたちが自分から企画し、焚き火や木工、ジュース作りが行われました。</p> <p><高校の修学旅行先に>（6月7日～10日 4名受け入れ） ・東京の新渡戸文化高校のスタディツアーを行いました。子供からお年寄りまで地域の方との交流の機会を作りました。高校生たちには、「暮らしとは何か？」を滞在期間の問いとして持ってもらい、地域の方々への突撃インタビューや毎日の食事作りを行ってもらいました。</p> <p>（活動との関連） 島内で暮らす人と当該で暮らす人が出会うことで、知らなかった価値観にお互い触れ合い、見方が広がることや、何もしなくていいし、何をしてもいいという考え方の場で内発的な行動を促すことを目指しました。</p> <p><地域の方々たちの居場所の一つとして>（月1～2回程度 20名程度参加） 地域の方々積極的にイベントを行うようになりました。家庭で作っている旬の野菜を持ち寄りお昼ご飯をみんなで作るおかず会が開催されるようになりました。</p> <p>（活動との関連） 地域の方が来るための導線、常に人がいる状態をつくることで、島内の人と島外の人が知り合うきっかけになりました。また、旬のものを使った家庭料理を学ぶ場にもなっています。</p>		



新渡戸文化高校の高校生と地域の小学生たちが遊ぶ様子
 小学生にとっても、高校生にとっても、
 普段は違う環境で生活をしているからこそ、良い刺激を与え合う
 時間となりました。



高校生と大学生、地域の方々と一緒に、
地域の料理を一緒に作って食べる
おかず会を開きました。

◆実施に伴う効果

小学生の放課後の居場所づくりや地域の方々の交流や活動の場（畑で作った野菜を持ち寄ってみんなで料理をつくる会）などプログラムについては予定していたものについては開催することができました。

普段の生活の中では会うことの少ない、都市部に住む人が、大崎下島の地域の方々（子供を含む）と交流をしたり、一緒に何かを作ることを通して、気づきを得る機会を作ることができたと考えています。

地域の文化に敬意を払いながら実施することで、様々な方々が入りしつとも、地域を消費しない形で作ることができました。

◆苦労した点

小学生の放課後の居場所づくりに関して、昨年度は教育や地域活動に関心のある大学生の滞在者を募集し、3～4名で子どもたちと接していたが今年度は、大学生の募集がほとんど出来ず、少ない人数での対応になってしまいました。様々な価値観や考え方に触れる機会にできなかったため、固定化したメンバーで運営するのは難易度が高かったです。また、今期の途中にメンバーがあいだすの施設運営から離れたため、施設としてのあいだすがクローズし別の方の運営に変わりました。

これまでは、子ども遊びやすい環境（小道具や自然物など様々なものを置いたり、ロープや工具など何かを作ることができる備品を置いていた）を構築していましたが、運営を外れてからは施設の備品が大幅に変更されたため、子どもたちが自分でやりたいことを見つけたり、思いついたことを実現する手立てがなくなってしまったことについては非常に苦労しました。

◆今後の課題・発展の方向性

何をするか以上に、どんな環境を作るのかは非常に重要だと痛感した1年でした。

考え方によって環境は大きく変わりますが、私たちが大切にしている考え方は、私たち自身にしか作れないので、3月の後半からは三次市の甲奴町に古民家を借り、新しい場所を作っていきます。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団の方が作ってくださったイベントやプログラムに参加することができず、申し訳ない気持ちと残念な気持ちが強くあります。

青少年向けの団体は、思想を持った団体が多いように感じるため、考え方が違うとコラボレーションが難しいなと感じています。そうした中で大崎上島の勝瀬さんのような、教育活動をしている人を上島に呼び、高校生と交流する機会をつくるといった、**人と人、活動と活動の横のつながりを作る人**はとても貴重だと思いますので、そうした活動をしている団体の応募が増えると、この助成金をいただいている多くの団体に良い影響があると思いました。

活動名	No.4	団体名	矢野豪雨災害かみしばい製作委員会
子どもたちと作る矢野豪雨災害の紙芝居		活動拠点	広島市安芸区
		代表者	太田 郁恵
		支援金額	17万円

団体紹介

2023年1月結成。製作委員会は、矢野小学校 PTA、矢野西小学校 PTA、矢野南小学校 PTA、矢野中学校 PTA、矢野町子ども会育成連絡協議会（矢野・矢野西学区）、矢野南子ども会連絡会（矢野南学区）、ひろしま紙芝居村の7団体から推薦された者をもって構成する。

平成30年7月豪雨（西日本豪雨災害）の際、広島市安芸区矢野地区で起こった事柄を、紙芝居で表現することにより、被災、復興の様子を記録、伝承することを目的とする。

活動概要

2022.11.15 あそぼーひろっぱスタッフ掲示板で提案	2023.10.16 安芸南高校訪問（計3回）
2022.12.4 発起人会議	2023.11.7 矢野中学校美術部の絵完成
2023.1.22 委員会発足会合	2023.11.19 あそぼーひろっぱ2023で暫定版上演
2023.3.14 マツダ財団助成事業採択	2023.12.19 推敲会実施（計2回）
2023.6.19 委員会会合	2024.1.27 思い出展示と上演会開催
2023.7-9月 3校の小学6年生から思い出募集	

矢野、矢野西、矢野南小学校の6年生を対象に、豪雨の思い出について、言葉や絵を募集したところ、124点の思い出が集まった。並行して、矢野中学校美術部に数十点の災害時の写真を渡し、選んで描いてもらった。小学生の思い出を読んで、ストーリーを生成し、絵を合成、中学生の絵を交えて紙芝居を構成した。

安芸南高校の「総合的な探求の時間」で、防災をテーマにしているグループとのマッチングが成立して、読み手として参加してもらった。彼らもまた小学校6年生のときに、この災害を経験していた。

ストーリーは、小学1年生のヤノカと6年生のお兄ちゃんが大雨に恐怖し、翌日は町の様子を落胆。ボランティアに感謝するというもの。最後には、5年後に、成長した二人の言葉がある。全25枚。A2版と童心社版を印刷した。

11月19日に、災害を契機に始まった子どもイベント「あそぼーひろっぱ」（矢野ニュータウン中央公園）のステージで、暫定版を上演。反省を踏まえて推敲し、1月27日に矢野公民館で、原画・原稿の展示と紙芝居の上演を行った。事前に中国新聞に紹介され、当日の様子はTSSニュースで報道された。

今後は学校等への貸し出しや防災関連行事で上演する予定。



あそぼーひろっぱ（矢野 NT 中央公園）で暫定版を上演(2023.11.19)



3校の児童の絵の合成と矢野中美術部生徒の絵で場面を構成



児童が見た豪雨紙芝居に
安芸区矢野の住民、西日本を題材に制作

2018年9月の西日本大雨で大きな被害を受けた広島市安芸区の豪雨地区で、子どもたちの記憶を新しい紙芝居「あの豪雨を忘れない」が完成した。地区に住む小学1年生の児童が主人公。当時1年生だった現在の6年生が、おもむきで思いを言葉と絵で表現し、絵や台本のベースに、27日後、1年経ち、矢野公民館で初の発表がある。

地区内の4小中学校に通う子どもの保護者たちでつくる「安芸豪雨かみしばい制作委員会」が企画した。約20分の内容で、メンバーたちが語りや登場人物の声、音楽などを担当。本番に向け、練習を繰り返している。

防災構成、小学1年生の「ヤノカ」は豪雨の日にあつた、翌朝、周辺で家が壊れ、車が流



安芸南高校生徒も読み手として協力(中国新聞 2024.1.26 付け)

矢野公民館で子どもたちの思い出展示と紙芝居上演(2024.1.27)

◆実施に伴う効果

正直なところ、子どもたちがこれほど一生懸命に思い出を書いてくれるとは思っていなかった。募集用紙の小さな枠の中に、絵や字や文章の上手下手を問わず、心を込めてぶつけてくれたものと感じた。雨や警報の音、変な臭い、土砂に埋まった小学校や町の風景が幼い心に記憶されていた。

5年後というのは遅すぎる感もなくはなかったが、1年生の幼い記憶が残り、表現を身に付けてきた6年生に書いてもらったことには意味があったように思う。子どもの心を記録できたことは、将来に向けて大きな財産になるのではいかとも思う。

本当の効果の有無は、これからの活用によるものだと考える。
矢野地区全部の小中高、PTA・子ども会が連携できたことは大きな成果であった。

◆苦労した点

振り返りのためメンバーの一部が町歩きをした。ある被災者に出会い、活動の趣旨を説明したところ、「いいことだとは思いますが、災害に対する感覚は被災や苦労の度合いで違うから」と教えてくださった。あの災害を地元で表現するのは、大変難しいことだと気付いた。

当初は、大人が子ども向けのストーリーと絵を創作し、子どもの思い出はときどき挿入する程度に考えていたが、子どもたちの絵や言葉を見て、方針を転換した。本当は全部の思い出を紙芝居に登場させたいくらいの気持ちだったが、紙芝居として成立しなくなるので、別途、展示をすることにした。

このストーリーは、ハッピーエンドになっていない。6年生になったヤノカは防災を勉強して「人間は絶対に地球には敵わない」と言い、高校生になったお兄ちゃんは他の被災地にボランティアに出掛けて「誰も被災者の痛みを代わってあげることができない」と言う。

◆今後の課題・発展の方向性

当面は出来上がった紙芝居を学校などに貸し出して、独自に上演してもらおうと考えている。資金的な課題はあるが、童心社版(汎用サイズ)で増刷し、学校や公民館に寄付できないかというアイデアもある。

また、災害時の子どもの心理などを、大人が考えるためのツールにもなればと思う。紙芝居だけでなく、展示もセットで考えたい。

イベントなどで上演する場合には、読み手の育成も必要かもしれない。

◆活動を終えての感想・意見等

活動が停滞した時期もあったが、子どもたちの思い出に奮起させられた。終盤は、完成が見えぬまま上演日を決めてしまい、スタッフを信じて突き進んだ。皆の土壇場の頑張りに拍手を送りたい。

ひろしま紙芝居村の阿部代表には、高校生と一緒にご指導をいただき、また、上演に必要な準備をしていただいた。なんとか上演に漕ぎつけられたこと、この場をお借りして感謝を申し上げる。

活動名	No.5	団体名	ぼこぼこトレイン
多様性の中で各々が輝ける場や機会を作るコミュニティづくり～インクルーシブ交流・あそびばの提供～		活動拠点	広島市西区
		代表者	鋤田 真樹子
		支援金額	24万円

団体紹介

2022年10月に設立し障がいや病気のある児、定型発達児がそれぞれの家族・きょうだい・地域にて各々多様性彩る関わりを大切に幸せ、輝き、楽しみをもって社会で活躍する大人になるよう、ゆっくり、のんびり、一歩ずつのその歩みを互いに認め、育める環境、仲間を増やし、家族みんなが安心して成長し合えることを目指しています。そのために乳幼児期から多様性のある環境に身を置き相互理解を地域や家族で考えていくことが広がればインクルーシブ社会への足がかりになるのではないかと考えています。主な活動としては毎月オープンスペースの開催、定期的なイベント、随時相談事業、付き添い入院支援として申込者へサポート品（生活用品や食品）を無償提供しています。【ぼこぼこ】 ゆっくり、のんびり、一歩ずつ 【トレイン】 繋ぐ、繋がっていく そんな『ぼこぼこトレイン』です 🚆

活動概要

- ・毎月第一土曜日は「ぼこぼこトレインの日」を知ってもらうために毎月開催にこだわりました。（各回10組程度参加）
- 季節にちなんだ遊びや制作フォトブースや手形アートなど親子で楽しめるブースを準備し、ボランティアの方と遊ぶ場面や参加同士交流できる時間にもなっています。（西区地域福祉センター3階大会議室）
- ・イベント企画・開催
- 「親子クッキング」10組参加
お味噌汁とおにぎりクッキングを親子で楽しみました。小さな子は初体験！大きい子は普段褒められないことも周りの大人たちに褒めてもらう機会になりました。また、苦手な野菜へのチャレンジやきっかけとなった方続出。
- 「夏祭り」16組参加
いつものオープンスペースの会場をお祭りにして楽しみました。ゲームコーナーは子どもたちが店長となり準備をすすめ、魚つりやくじ、的当てなど一緒に遊びました。準備作業なども異年齢で協力し合う姿が頼もしかったです。
- 「おみせやさんごっこ」28組参加
職業疑似体験イベントとし10個のブースにて様々な職業体験を企画。広島電鉄様の段ボール電車やカゴメ様から飲料の提供等企業の協力も得ることができました。地元のパン屋、福祉作業所の焼菓子販売やおしごとファッションショーなどもあり、小さなお子さんでも気軽に体験することができました。
- 「今を楽しむコンサート」：100名参加：プロのピアニスト・チューバ奏者の協力があり、アステールプラザにて開催
普段、コンサートへ行く機会がないご家族に大変喜ばれました。



オープンスペースで楽しむ親子



今を楽しむ親子コンサート



おみせやさんごっこ



親子でクッキング

◆実施に伴う効果

「病気や障がい・特性のある子を連れてお出かけにくい」「特性のある子の子育て相談・情報がわからない」と言った声にこたえるべく活動を継続し、たくさんの親子と関わる中で「インクルーシブな場所」として周知されてきました。メディア掲載等、周知活動にも励み、少しずつ活動に賛同・協力して下さる方も増えてきました。子ども達の居場所作りは子育て真っ最中の親の居場所にもなり、「ぼこぼこなら安心して遊べる」「ぼこぼこなら他者と比べることなく理解してもらえる」と言った感想も多くいただいています。

付き添い入院サポートは市内の5つの総合病院と連絡を取りながら1月末現在64件の付き添い入院中のご家族へサポート品をお届けしました。過酷な環境の中生活をしているご家族の孤独解消や物資提供による安心感を感じるという感想がたくさん届いています。

◆苦労した点

インクルーシブ社会への足掛かりとして乳幼児期からのインクルーシブ子育て、遊び環境を設定することのハード面、ソフト面の難しさを感じています。開始当初は、ボランティア数が少なく、子どもひとりひとりに合わせた対応への難しさがありました。例えば、多動・衝動性等動きの活発な子と、未歩行、感覚過敏により賑やかな場所が苦手な子が同じ場所、活動を共有し、楽しむためには、どのような環境設定、配慮や関わりをするか、トライ＆エラーな中取り組んできました。とはいえ、子どもたち自身は、どの子が障がいや病気があって、どの子がなくて、といった、大人が設けた障壁、ラベルはあまり感じる様子はなく、またそういう子どもからの感想もあり、こちらが学んだことでもあります。幼少期だからこそ、障がいや病気の有無関係なく育ちあえる楽しみ合えるその自然に抱く関係性を、大人が意図的に自己・他者認知、受容、相互理解する場所にはならないよう、子ども達それぞれの気づき、発見、疑問に答えていくことがこれからの課題でもあります。

◆今後の課題・発展の方向性

今後は障がいや特性があっても受け入れ可能な店舗や習い事等の発信、周知など「知りたい情報」がすぐにわかるような発信の仕方を研究。障がい理解や受け入れを広めていくためにボランティア育成も視野に入れていますが、活動を広域に広げていくために、少ない人材や資金の解消が課題です。

「支援・応援をしたいけど何をしたらいいか？何ができるか？わからない」と言った声も多く届きました。そのために「おうちにある物で支援」「寄付」等のチラシ掲載や発信も今まで以上に積極的に、支援したい人の気持ちを必要な人へとつなげていく社会的責任も背負いながら活動を継続していきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

メディアに取り上げられるごとに反響も多く、インクルーシブな場所への期待感や必要性をとっても感じています。「理解されない」「言っても無駄」「違うことがだめ」と感じる場面等に触れた親子は行き場をなくし孤独な子育て環境となる場合もあります。「ぼこぼこトレインなら行ってみたい」と言われることも増えてきているので、活動を継続し、参加される方々と共に考え、地域や社会に投げかけて障がい理解が進むよう取り組んでいきたいと改めて感じております。

活動名	No.6	団体名	ふかわ子ども食堂
ふかわ子ども食堂		活動拠点	広島市安佐北区
		代表者	渡邊 恭子
		支援金額	17万円

団体紹介

活動は2019.7月～構成メンバーは2月現在大人ボランティアスタッフ13名+大学生や高校生さんも随時参加。
 結成の目的は、地域の多世代交流の場の提供、高齢者世帯の孤食対策、親子の居場所作り、食事の提供。
 現在の活動方針は、
 ① 子育て世帯に対する食事の提供・企業様からの提供食品の無料配布、遊びを提供することによる家族のホッとできる居場所の提供を行う。
 ② フードロスの削減のため、フードロス食品をあいあいねっとさんや広島こども食堂支援センター様より提供いただきそれを使った食事作り、無料配布を行う。
 ③ 平日に子どもだけが参加する子ども食堂も開設し、子ども達の居場所作りも行い、子ども達の自主的で意欲的な活動を支援する。

活動概要

① 子ども食堂(日曜開催)
 毎月第四日曜日に広島市安佐北区深川の会社の社員食堂プラザ Hot One にて開催
 内容は、フードロス食品を使った食事提供、食品の無料配布、親子や子ども達同士で遊べる遊びの提供(バトミントン、卓球、シャボン玉)、季節の行事(お餅つき、夏祭り)、秋に湯来町くもで広場へ遠足(バーベキューやヤマメのつかみ取りなど)参加家族は、1回約15世帯、50人
 ② 子どもの居場所づくりとしての子ども食堂(平日&土曜日開催)
 毎週木曜の放課後から17:30までと第2土曜10:00～16:00に広島市安佐北区深川上庄会館にて開催。内容は、木曜は子ども達と一緒におやつ作り後は宿題をしたり、工作をしたり運動遊びをして過ごす。土曜日は、子ども達と昼食とおやつを作り、後は木曜と同様工作をしたり運動遊びをしたりして過ごす。子どもたちの意欲的で自主的な活動を支援するという目的であり、子ども達の個性を尊重したい。みんなが料理をしていても工作がしたかったらしても良いし、集団生活のルールを作らず、自分で決めたことをする。ありのままに楽しんで過ごせるように見守る活動である。 現在在籍23名

2023.6.25 広島文教大学の学生さん主催の子ども食堂開催

2023.10.22 湯来町くもで広場にて



学生さんが主催の子ども食堂14:30～17:30で開催、おやつ作り&ゲームを楽しむ。



親子でバーベキューやヤマメのつかみ取り、公園での遊びを楽しむ。



2023.12.17 お餅つき開催。



平日の子ども達の居場所 この日はクリスマスが近かったのでミニクリスマス会。パウンドケーキを作った。

◆実施に伴う効果

昨年度に引き続き家族で参加される方が多く、フードロス食品を無料で提供すること、安価での食事提供に対して大変喜んでいただきました。またフードロスを活用するという観点で貢献出来ていると思います。

遊びも引き続き用意していて、子ども同士で、そして家族で遊んでいる様子が大変微笑ましかったです。

地域の方のご支援によりこの12月にはお餅つき、祝い鶴折り、1月には万華鏡づくりを開催し、参加者さんに喜んでいただけるだけでなく、地域に根付いた活動になってきています。12月のお餅つきでは、深川地域の子ども会を通じて参加を呼びかけ、深川地域への認知を広める広報活動が出来ました。1月は地域の老人会の会長さんを招待し、子ども食堂の活動を知っていただくいいきっかけになりました。

平日開催の子ども食堂では、子ども達が自分なりのペースで料理をしたり、工作をしたり、運動遊びをしたりして過ごすことが出来ました。コロナが落ちついたということもあり、参加している子ども達の友達が参加し、登録している在籍者数が増えました。

◆苦労した点

コロナが実質おさまったので、参加呼びかけや開催もスムーズになった。苦労といえば、資金集め。補助金なくしては活動資金がないため、補助金申請には苦労する。でもおかげさまで今年も補助金には恵まれ、十分な活動ができた。

◆今後の課題・発展の方向性

深川地域への周知を広げたい。現在日曜日に開催している子ども食堂はたくさんの方に利用していただいているが、地元の深川の参加が少ないという課題があり、今後は、深川地域の皆様が参加しやすい曜日・時間帯に新たに地域食堂を始める予定。

来年度の夏には、地域の人と共同で使う空き家の改修工事が終わりそこで食堂も子ども達の居場所作りも行っていくため、地域の方への広報を強化して、周知を広め食堂や居場所の利用者を増やす。地域により根差した活動にしていく。拠点ができるということで、昨年断念した、夏休みの子ども達に昼食の提供を週に1回行う。

◆活動を終えての感想・意見等

たくさんの方の支援を得て今年一年充実した活動ができたことに感謝の気持ちしかありません。今の親子世帯、地域にどんなニーズがあるのか、ということに常にアンテナを張って探りながら、地域の人達がさらに立ち寄ってくださるような、皆さんの笑顔の集まる場所になるように、私一人の力ではなくみんなの力を合わせて進んでいきたい。活動の資金となる補助金が得られやすい環境を願います。

活動名	No.7	団体名	宿題やつつけ隊
子どもの放課後学習支援		活動拠点	広島市佐伯区
		代表者	松岡 和貴
		支援金額	31万円
		団体紹介	
<p>結成時期：2017年6月 構成メンバー：子ども120人、ボランティア20人 結成の目的：教育の機会の平等を図るために子どもの放課後学習支援事業を行う。本会に登録している子どもの多くは学習塾に通っていない。中には経済的理由により、通塾が困難な子どもも存在している。そのような子どもたちを支援するために実施している。</p> <p>また、地域コミュニティを創出する側面もある。勉強を通して、子どもと地域住民との交流の場として機能する。参加している地域住民の多くは仕事を退職されたご年配の方であり、新しい繋がりを求めたり、子どもを孫のように接しながら活動を楽しまれていたりしている。また子どもの観点から、両親や学校の先生以外に身近な大人があまりいないため、知り合いの地域の大人が増えて、安心して過ごしやすいくなる。</p>			
活動概要			
<p>実施日時と場所、対象学区</p> <p>(教室学習支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日 15時～18時 皆賀公民館 五日市東学区 ・木曜日 14時～17時 五日市公民館 五日市学区 ・金曜日 15時～18時 五日市中央公民館 五日市中央学区 ・土曜日 10時～11時 佐伯区福祉センター 五日市南学区 <p>(自宅学習支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日、時間、場所は指定なし 五日市観音学区・楽々園学区 <p>内容</p> <p>(教室学習支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習塾に通塾していない小学生を中心に、無料学習支援を実施 ・講師はすべてボランティアで、地域住民から構成 <p>(自宅学習支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数が苦手な小学生を中心に、当会で作成した計算プリントを提供 ・子どもは各々の自宅で計算プリントをこなして、計算力アップを図る <p>参加人数</p> <p>子ども(小学生) 120名 講師(ボランティア) 20名</p>			



教室学習支援の様子



教室学習支援の様子



教室学習支援の様子



教室学習支援の様子

◆実施に伴う効果

教室学習支援の他に、昨年度より自宅学習支援を取り入れ、現在は順調に進んでいる。

今後も教室学習支援と自宅学習支援の2本柱として、活動を継続していく。

また、子どもと保護者向けに2023年度のアンケート調査を実施 ※集計数120

- ・本会の満足度 85%
- ・子どもが勉強を好きになった 75%
- ・テストの点数が上がった 60%
- ・自宅で学習する時間が増えた 70%
- ・学校の授業が分かるようになった 85%

◆苦労した点

自宅学習支援にて今年度は3学区で展開予定だったが、2学区の展開に留まった。自宅学習支援は保護者の協力が必要不可欠であり、定期的に連絡して情報共有と子どもの進捗管理の把握が必要であるため、人数が多くなるほど対応に追われてしまった。今後はボランティアメンバーを活用して対応して参りたい。

◆今後の課題・発展の方向性

これまでは子どもに無料で学習支援を提供してきたが、次年度より会費（¥500/月）を徴収することを検討している。狙いは2つあり、1つは安定して活動を継続させるためである。2つ目は、無料故に欠席が多くなってしまったり、勉強にやる気を出さずに過ごしている子どもが年々増加しており、保護者協力の元、改善して参りたい。

◆活動を終えての感想・意見等

3年間のご支援をありがとうございました。途中コロナの影響で活動が停滞しかけた事もありましたが、無事にやり切ることが出来ました。今後もより広く展開して多くの子ども達に必要とされる存在となれるよう努めて参ります。

活動名	No.8	団体名	やはた昔遊びの会
昔あそびの伝承と指導		活動拠点	広島市佐伯区
		代表者	吉野 仁美
		支援金額	10万円

団体紹介

公民館の呼びかけ（本作り講習会）昔遊びの発掘が目的で集まった（八幡で集めた昔遊び）の本を完成させた時、昔遊び伝承の必要性を強く感じた昔遊びの魅力・年齢差を超えた仲間作り、体力作り

- ・工夫する知恵、粘り強い忍耐力
- ・判断力、瞬発力、柔軟さ

伝承の必要性に加え 町内会、子ども会、地域の組織が弱体化する中、イベントの救世主となっている。（と思っている）呼ばれて断ったことがない。

昔遊びの発掘、先生や地域の（放課後見守り等の）ボランティアさんにも遊び方の伝授をする活動、草木の栽培も始めて自然遊びの分野も広げている。

本では表現しきれない部分を動画で記録し伝承の方法を広げる。

活動概要

年間：工作の材料作り、あそびの研修

4～9月（やくし日曜市）わなげなどのゲーム

7/26（八幡公民館）夏休み 染め物と植物遊び・ゲーム 20名
 …栽培した 藍蓼の染め物、紫外線ビーズでストラップ、折り紙などの工作

10/28, 29（植物公園）オータムフェスティバルで昔遊び体験、工作指導 700名
 …リーム回し・竹ぼっくり・フーフ・けん玉・風車・紙ごま・ぶんぶんごま等
 …草の実飛ばし・おはじき・お手玉・あやとり・紙ごま

12/3（八幡公民館）子ども工作 万華鏡、綿の実工作（芋づるリース） 20名

1/14（城山中学校）やはたとんど祭りで昔遊び体験 300名
 …羽根つき・リーム回し・竹ぼっくり・フーフ・けん玉・コマ回し

1/17（薬師が丘サムエル子どもの園）で昔遊び体験 100名
 …羽根つき・リーム回し・竹ぼっくり・竹トンボ・けん玉・お手玉・おはじき
 あやとり・コマ回し・ぱっちゃん（先生たちに遊び方指導）

1/24（八幡小学校体育館）1年生、地域の方と交流会で昔遊び体験 140名
 …紙飛行機・紙鉄砲・ぱっちゃん・おりがみ・お手玉・ぶんぶんごま、糸巻き車

2/23（薬師が丘風の子子ども会）風の子フェス八幡小で遊び市 130名
 …魚つまみ・はねつき・糸巻き車・ストラックアウト・バスケシュート・的当て等
 地域の皆さんや役員さんへ昔遊び指導

・昔遊びの実践講習要請があり、他地域の公民館や小学校、子ども会のボランティアさんへ遊び方指導（グループで作成した昔遊びの本を配布）



リース作り



植物公園



夏休み工作



藍染め

◆実施に伴う効果

- ・団塊世代の高齢化でボランティアの若返りを模索中、子育て世代は行事に参加したいが事業の企画、運営には関わりたくないといった状況の中、子どもたちにたくさん【昔遊び体験】をしてもらい根っこを育てたいと思っている。ついてきた保護者の方も喜んで、遊びに参加し熱中されている。
(子育て世代は昔遊びを知らない。)
- ・幼稚園や小学校の先生たちに昔遊びの体験が無い中、道具はそろえて我流で遊んでいるようだ。訪問して体全体を使って、遊ぶ楽しさや仲間同士で遊びのルールを考えることや、年長者から年少者へ工夫を伝えていく楽しさを伝えている。
- ・その場でルールを決めたりする（コミュニティー）が必要なので子供たち同士で話す努力をしているようだ。

◆苦労した点

- ・子どものほとんどが、はじく、蹴飛ばすなど細かい動作所作が上手に出来ない（積み重ね）鍛錬には時間がかかる練習してねで終わってしまう。
- ・かなりの余談だが、いつもの先生たちとは違う地域の人と交流することで、誰に言っても伝わらない悩みを、話しかけてくる子もいて、切ない。たびたび顔を合わせられる、（塾）的なものになると良いのかと思うが（重い）
- ・ブンブンゴマの紙を丸く切ったりする準備作業など高齢者が困難になりつつある、会員の若返り必至。
- ・まりつき、ゴム飛び、あやとりなど若い会員が練習できるように動画必至

◆今後の課題・発展の方向性

- ・自然とのふれあいのため草花の栽培も始める。（草も珍しいこの頃です。）
- ・常時 1, 2 人で準備を行い当日応援的に会員が集まっているしかしコロナを体験し、皆が内容を知っていることの、必要性を強く感じ会員の若返りと企画・準備・運営を交代で担当することを今後の課題としたい。
- ・昔遊びの伝承相手は、子どもと考えがちだが、大人（保護者）こそ大勢での企画・準備・運営を昔遊びから学んで欲しい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・コロナ禍でふれあいが少なくなり、手取り足取りが難しかったが、平常に戻りつつあるので、『昔遊びを通して』子どもたちと元気に遊び、親たちには、日常を忘れ体中を使って子どもと戯れて欲しい、先生たちには子どもとのコミュニケーションをとるきっかけにして欲しい。と願っています。

活動名	No.9	団体名	一般社団法人まち物語制作委員会
ヒロシマ復興絵おと芝居公演事業		活動拠点	広島市西区
		代表者	福本 英伸
		支援金額	30万円

団体紹介

（一社）まち物語制作委員会は広島市に拠点を置き、2018年に法人化した。地域の歴史や魅力発信、災害等の被災体験の継承における“物語”の有効性を訴え、まちの物語を紙芝居や絵本、アニメにし、発信する事業に取り組んでいる。

とりわけ力を入れているのが“絵おと芝居”である。絵おと芝居とは新しい紙芝居公演として絵と朗読と音楽のコラボ公演である。今回の上演にあたっては広島的大学生、高校生、中学生をはじめ商店街や公民館グループなど多くのヒロシマ市民が参加してくれたほか、音楽は広島でプロとして活躍する音楽家が参加し舞台芸術としてのクオリティを保ってくれている。

活動概要

（1）第1回ヒロシマ絵おと芝居公演

- ① 日時：2023年5月20日（土）午後1時～午後8時半
- ② 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ マルチメディアスタジオ
- ③ 入場料：無料
- ④ 入場者数：150名
- ⑤ 内容：スポーツの力1／「カープ誕生物語」：スポーツの力2／「広島サッカー復活物語」
食の力／「お好み焼き物語」、花木の力／「ヒロシマ緑の輪物語」、音楽の力／ヒロシマ第九伝説：、子どもの力／教育施設「似島学園」物語。、現場の力／ヒロシマ7 DAYS

（2）第2回ヒロシマ絵おと芝居公演

- ① 日時：2023年8月6日（日）午後1時半～午後4時半
- ② 場所：広島市西区民文化センター大ホール
- ③ 入場料：無料
- ④ 入場者数：220名
- ⑤ 内容：スポーツの力1／「カープ誕生物語」、スポーツの力2／「広島サッカー復活物語」、食の力／「お好み焼き物語」、花木の力／「ヒロシマ緑の輪物語、現場の力／ヒロシマ7 DAYS



第1回絵おと芝居 緑の輪物語上演



第1回絵おと芝居 被ばく証言



第2回絵おと芝居 広島サッカー物語上演



第2回絵おと芝居 カーブ誕生輪物語上演

◆実施に伴う効果

目的として挙げていたのが次世代を担う若者とともに行う平和発信だ。これについては非常に大きな成果を得たと考えている。第1回ヒロシマ絵おと芝居では「ヒロシマ7 DAYS」という作品を広島市立大学の学生が担当した。また第2回の公演ではヒロシマ緑の輪物語において広島市立中広中学の生徒が上演を担当した。そして同校の先生方もが音楽に参加していただくなど学校を上げて参加となった。同じく第2回絵おと芝居の広島サッカー物語では広島修道中学・高校生が上演を担当した。このとき修道中学のインターアクト班の皆さんは運営にスタッフとして参加、受付や記録係などを担当し裏方として公演全体を支えてくれた。

◆苦労した点

- ・外国人にお越しいただくため、広報チラシも日英併記とした。それらチラシを使い海外特派員が所属する協会や海外の記者が所属する記者クラブを通して来場を呼び掛けたほか、広島市内のホテルなど宿泊施設にチラシを置いてもらった。加えて、第1回絵おと芝居前日の5月19日にはG7サミットのプレスセンター前でスタッフがチラシを配布し来場を呼び掛けた。
- ・世界に発信するためには英語訳は不可欠と考え、全ての物語に英語訳をつけた。それら作業を行う予算を計上しておらず、ボランティアで行ってもらったが、それら作業は膨大なものになり、大きな負担となった。

◆今後の課題・発展の方向性

多くの若者が上演だけでなく運営に主体的にかかわっていただけたのは“復興”を物語の着地点とし「絶望」と「希望」を同時に表現したからだと考えている。まち物語制作委員会としては今後も若者による平和発信の在り方として“復興”を柱に推し進めていきたいと思う。

◆活動を終えての感想・意見等

今回の上演を見ていただいた地元テレビ局が、ヒロシマ絵おと芝居を使った被爆80周年事業への展開を考えていただいているほか、広島商工会が掲げるpride of Hiroshimaの常設展への活用を検討していただくこととなった。また海外の大学が2年後に行うヒロシマ・ナガサキの巡回展示の演目として紙芝居上演されることとなった。

活動名	No.10	団体名	このまちにくらいたいプロジェクト
中学生がつくる冒険あそび場 「ワンダふるたパーク」		活動拠点	広島市西区
		代表者	河原 正生
		支援金額	10万円
団体紹介	<p>結成時期：平成25年9月</p> <p>構成メンバー：中学生をコアとした地域住民と、活動拠点となる古田公民館</p> <p>結成の目的：中学生が主体となって、住みなれた地域で多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き、地域住民とともに、今住民自身でできる行動を起こすこと（住民自治）を目指し、この取り組みの成果を活かして、社会に主体的に関わり行動できる人材を育む。</p> <p>活動方針：地域の社会課題と向き合い、ほとんど利用されていない公園の現状に気づく。公園のあり方を住民自身で再考することで、世代をつなぐ地域の居場所として再生することを目指し、「みんながしあわせに使える公園・あそび場づくり」を活動テーマとし、中学生がつくる公園活用イベント「冒険あそび場ワンダふるたパーク」を実施する。</p>		
活動概要	<p>中学生がつくる冒険あそび場「ワンダふるたパーク」を年4回開催</p> <p>1. 実施日</p> <p>第1回 令和5年 6月25日(日)10:00～15:00 (参加人数:277人)</p> <p>第2回 令和5年 8月20日(日)10:00～15:00 (参加人数:139人)</p> <p>第3回 令和5年12月10日(日)10:00～15:00 (参加人数:326人)</p> <p>第4回 令和6年 3月17日(日)10:00～15:00 (参加人数:264人)</p> <p>2. 場所</p> <p>古江西町公園 (通称:ちどり公園)</p> <p>3. 内容</p> <p>公園内を主に3つのゾーンに分け、自由に過ごせる場の提供とアクティビティの支援を行う。</p> <p>回によっては地域団体や福祉関係団体などとも連携し、多様な体験プログラムを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒険あそび場のある公園 ・大人もくつろげるカフェのある公園 ・にわか大道芸を体験できる公園 		



進行は中学生。開催に向け、地域団体も交えての企画会議



冒険プログラムにはスタッフのサポートも





先生は地域の方。いろんなことにチャレンジ



地域団体との連携で季節行事(もちつき)も体験

◆実施に伴う効果

地域と向き合った中学生の気づきから始まったこの事業も、今年度で10年を迎えた。今の中学生スタッフは、小学生のころにはすでに始まっていたこの事業に参加し、そのときの中学生の背中を見てはしゃぎまわっていた子どもたちである。その子どもたちが今、企画・運営する側として参画している。この人材の循環により、活動方針が受け継がれ、継続して実施できていることの効果であり、ここで体験したことを糧に、将来、社会の中で主体的に関わり行動できる人材となることが期待できる。

また、この取り組みを重ねることで、地域社協や子ども会など地域団体からの理解も深まり、運営面に対する協力や、季節行事の同時開催などにぎわいの創出にも一役買ってくれるようになり、地域の中でも年中行事として開催を期待されるようになってきている。

◆苦労した点

年4回の開催に向けて、約1か月前毎の企画会議、そして前日準備など、中学生スタッフの進行によりおこなっているが、学校行事等によっては時間通りに集まることが難しく、成人スタッフだけで進めてしまう場合があった。

また、当日参加できるスタッフの確保も、早い段階での確認が難しく、人員不足により提供できるアクティビティに影響が出る場合があった。

◆今後の課題・発展の方向性

運営方針は、開設当初の中学生スタッフの思いを継承しながらも、従来通りのアクティビティだけでなく、新たな遊びの達人など、まちの中に隠れている人材を発掘し、新しいアクティビティの提供に取り組むとともに、子ども会など、各種地域団体との連携の充実も図っていきたい。

なお、課題としては、原則無料としている、「大人もくつろげるカフェのある公園」で提供している清涼飲料水などの運営経費であるが、将来的には受益者負担の考え方も検討していく必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

来場者数については、地域の中で実施するイベントとしては毎回盛況であると言える。ただし、「多様な世代との共生」という目的からは、もう少し高齢者も単独で来場しやすい（くつろげる）工夫が必要であると感じている。

企画会議では、アクティビティの内容について話し合うことに重きを置き、会場設営に関する基本的な物品の準備や配置などは固定化することで、効率的な運営を図ることができた。

活動名	No.11	団体名	妙聲寺ほのぼの寺子屋
お寺本堂での小学生の学習支援と居場所づくり		活動拠点	広島市西区
		代表者	善倉 美紀子
		支援金額	10万円

団体紹介

2021年7月に結成。ボランティア7名、子ども14名。

昨今、貧困問題が大きくクローズアップされており、経済格差が教育格差となっているのは周知の事実である。また、コロナ禍で行動が制限され、大人も子どもも「生きづらさ」を感じている。南観音築は商業地域であり、地域の人々の関わりがきわめて少ない。このような現状の中で何かできることはないかと考えこの、お寺に関わる方々の人間力を活かして寺子屋を立ち上げた。寺子屋の活動で子ども達の学習面でのお手伝いをし、基礎学力の定着だけでなく「ほめる」ことに重点を置き、認められる喜びと自己肯定感を持たせたいと考えた。

また、広島市の推奨する「百歳体操」の参加者と子ども達との触れ合いにより、世代間の交流の輪を広げ、礼節を守りながら「生きて働く寺」を目指していく。

活動概要

実施日：毎週金曜日 15:00～17:00
 場所：妙聲寺本堂
 参加人数：ボランティア7名、子ども14名

- ・1対1または1対2の対応で一人一人のつまづきを丁寧に解決させながら宿題に取り組ませる。
- ・問題プリントに挑戦させ、自信をもって学習に取り組めるようにする。
- ・「分かる」「できる」という経験を重ね、学ぶ喜びを知り、興味の対象を広げ、積極的に物事に向かうことができるようにする。
- ・「出席シール」や「頑張りシール」、「頑張ったで賞」などで達成感を持たせる。
- ・その日の様子を保護者にLINEで知らせ、子ども達のがんばりを共有し、子育ての際の孤独感を軽減する。
- ・寺子屋での場所を必要とする子ども達がいつでも来られるよう門戸を広げる。
- ・寺子屋と平行して、13時から百歳体操を始める。お年寄りだけでなく子どもが参加する場合もある。



寺子屋での学習風景



つまづきを丁寧に解決



1対1の対応



頑張ったで賞！

◆実施に伴う効果

- ・挨拶ができるようになった。
- ・寺子屋での学びが楽しい。その結果、家での笑顔が増えケンカがなくなった。
- ・自分に自信が持てるようになり発表回数が増え、成績も上がった。
- ・計算が苦手だったが百マス計算や計算ドリルのおかげで計算が得意となった。
- ・宿題にかかる時間が短くなった。
- ・宿題を後回しにせず積極的に取り組むようになった。
- ・金曜日実施のおかげで宿題が金曜日に終わるため、親子共々、週末の生活にゆとりが持てるようになった。

◆苦労した点

- ・殆どの子どもが高学年になり下校時間が遅くなったため、寺子屋へ来る時間が遅くなる。結果、学習時間が短く、ボランティアの負担が増えた。(時間は短くなったが勉強量は変わらない)
- ・季節によっては帰宅時間が暗くなる。雪や雨の日など天候の影響によるケガ(階段で滑る、濡れてしまうなど)の心配がある。(ボランティア、子ども達共々)
- ・行き帰りの道中での事故、事件への心配がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・低学年と高学年の入れ替えができるようにしたい。
- ・貧困家庭の子ども達を呼びたいが、声が届かない。来ても他の子ども達と馴染めない場合があるので今後の課題となっている。
- ・表面的には様々な支援を必要とする子どもは少ないように思われる。しかし、個々には手助けを待つ子どもは少なくない。統計によると小学生では10人に1人位の割合で何らかの発達障害があるとされているので、それらの子ども達をしっかりと受け止めていく対応に苦慮している。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・このようなボランティア活動が必要とされなくても、子どもたち一人ひとりに手厚い支援が届く社会の仕組みであってほしい。

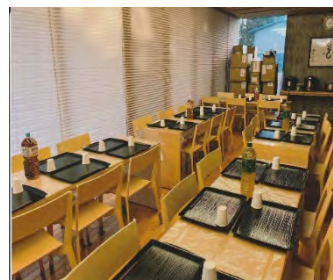
活動名	No.12	団体名	「うつしの杜」子ども食堂
「うつしの杜」子ども食堂		活動拠点	広島市中区
		代表者	永田 雅紀
		支援金額	15万円

団体紹介	<p>結成時期 2018年8月結成。</p> <p>構成メンバー 20代3名 40代1名 50代2名 60代5名 70代8名の計19名</p> <p>目的 すべての子どもたちに対して「一人からでも安心して快適に過ごせる居場所」をつくれるよう、地域の人たち、保護者、いろいろな年代の人たちと子どもたちを見守り、育んでいく。またお互いに交流を深め地域の活気づくりにもつなげていく。</p> <p>活動方針 子どもたち、保護者、地域の人たちと一緒においしい食事をして楽しく語り合う。子どもたちの勉強や遊びの場を提供する。子どもたち、保護者や地域の人たち、高齢者、ボランティアの人たちの交流の場にする。上記の活動を通じて、子どもたちの「相手を思いやる」「やさしい心」を育む手助けの場にしたい。</p>
------	--

活動概要	<p>★毎月第4木曜日に広島市中区の廣瀬神社の社務所で開催。但し3月・7月・12月は学校の休みがあるので第3木曜日に変更している。</p> <p>★2020年の7月からコロナ禍により会食から弁当持ち帰りに変更していた。毎回寄付してもらった野菜により献立を考え、野菜を多く使った、家庭で食べる料理をつくっていた。季節を感じるメニューを心がけ、おはぎも手作りしている。また、何年も継続してお菓子を寄付してくれる支援者のおかげで毎回子どもたちにお菓子を渡すことができています。2023年10月まで弁当の持ち帰りを続け60食前後を作っていた。</p> <p>★11月から会食を再開した。 3年4ヶ月ぶりだったが幼児、小学生、中学生、大人合わせて32人の参加者があった。 食事は、持ち帰り弁当と同じく野菜を取り入れたメニューで十六穀米をいれた炊き立てのご飯と温かい汁物を付けている。 食器の片付けは参加者に所定の位置に返却してもらうようにしている。 食前・食後に、子どもたちは絵をかいたり、ボランティアの学生と手作りのゲームや会話を楽しんだりしている。</p> <p>★子ども食堂開催日の前にはスタッフ会議を開き前回の反省と、次回の献立、担当などについて話し合いスムーズな運営を心掛けている。</p>
------	---



若いスタッフが手作りのゲームで子どもたちと遊んでいます



食器の片付けを手伝ってくれます



たくさんの寄付をいただいています

料理は楽しく、手際よくを心掛けています

◆実施に伴う効果

- ・弁当持ち帰りの間は、子どもたちとのふれあいはなかなかできなかったが、保護者からは弁当の持ち帰りによりゆとりくつろぐ時間ができた、料理のレシピを知りたい、子どもが野菜を好きになった、今日の料理はなにか楽しみにしてきた等の声をもらい交流をすすめていった。
- ・会食再開後は子どもたちの食事の様子や友達同士の会話、遊ぶ様子を目にする事ができ、食事がおいしいと食べてくれることでスタッフは活動のエネルギーを得ることができる。
- ・応援スタッフとして参加してくれる福祉専門学校の学生が毎回遊びの道具を作ってふれあいをすすめてくれるので、子どもたちはより親しみ話しやすくなったのではないかと思う。

◆苦労した点

- ・コロナ禍のためなかなか会食にふみきれなかったこと。コロナ感染症が第5類になり行動制限が解除されたが、開始の時期についてスタッフの意見がなかなかまとまらなかった。
- ・毎回参加予約はとっているが予約なしで参加する人もいるので人数の確定が難しい。食品ロスにならないよう考えながら作っている。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・弁当持ち帰りの前はスタッフも子どもたちの隣に座り食事をしたり話をしたりしていたが、現在は席数の関係でそれができにくいので他のかかわり方を考える。
- ・地域と連携して年2回イベントを催し、子どもたち、保護者、地域の人、ボランティアの人が一緒に楽しい時間を過ごし、互いに交流できる場を計画している。またその中から地域の若い世代が参加してくれることを願う。
- ・年に4回子ども食堂の活動内容を知ってもらうために「子ども食堂たより」をだす。広報することにより賛同者が増えていくことを願い、子ども食堂を継続していき次の人たちにバトンタッチしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

子ども食堂をたちあげて5年、コロナ禍もあって手探りでやってきた。開設時から食材、米、菓子、寄付などたくさんの支援を頂き、広島子ども食堂支援センター様からの支援などで続けてくることができた。今年度マツダ財団様から支援していただき、様々な関わりのなかで私たちは活動の原点・目的を考えるようになった。会議を開いて目的を確認し、次回の活動計画を立てている。

2月の成果報告会でさまざまな発表や意見をききアドバイスを頂いた。子どもとのふれあいや会話の中で子どもの気持ちをくんでいくことを大切にしたい。そして改善点や目標、活動の在り方をスタッフで話し合い計画していこうと思っている。

活動名	No.13	団体名	子どもとつくる科学遊び研究会																																												
ものづくりチャレンジラボ！ ～科学の不思議を楽しみ、失敗から学ぶ～		活動拠点	広島市東区																																												
		代表者	中山 貴司																																												
		支援金額	24万円																																												
団体紹介	<p>【結成時期】2022年4月</p> <p>【構成メンバー】将来、小学校教諭や幼稚園教諭、保育士をめざす大学生10名と大学教員1名</p> <p>【結成の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学生と地域の小学生が一緒になって、科学体験を中心としたものづくりをすることで地域貢献をする ○大学生や小学生が、科学の楽しさやふしぎ、粘り強くチャレンジすることの大切さを実感する <p>【活動方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に10回、大学生と小学生が一緒に科学体験を中心としたものづくりをする場を設定する（1回2時間） ・大学生が、主な活動内容を考えたり、活動を進めたりする ・2回続けて同じものづくりをする場を設けたり、子ども自ら再挑戦したいものづくりをさせたりするなど、粘り強くチャレンジする場を設ける 																																														
活動概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>実施日</th> <th>活動内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>4月29日</td> <td>I-① 「どろだんご」づくり +「スライム」 </td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>5月13日</td> <td>I-② もっと光るピカピカ「どろだんご」づくり +「オニヤンマバランスストンボ」 </td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>6月24日</td> <td>II-① 「ペットボトルロケット」づくり </td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>7月8日</td> <td>II-② 「ペットボトルロケット」を飛ばそう</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>8月5日</td> <td>II-③ 遠くまで飛ぶ「ペットボトルロケット」づくり</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>10月14日</td> <td>III-① 「どんぐりやじろべえ」づくり </td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>11月4日</td> <td>III-② かわいい「トトロどんぐりやじろべえ」づくり +「浮かぶビー玉オブジェ」</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>11月25日</td> <td>IV-① 身近な物を使った「空気砲」づくり +「膨らむマシュマロ」「CDホバークラフト」 「ペットボトル中で膨らむ風船」「こぼれない水」 </td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>12月9日</td> <td>IV-② 遠くまで空気を飛ばす「空気砲」づくり</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>12月23日</td> <td>V もっとチャレンジ！～これまでの活動から選択～ +「ビー玉コマ」「うちわ回し」「リングキャッチャー」 </td> <td>10名</td> </tr> </tbody> </table>			回	実施日	活動内容	参加人数	第1回	4月29日	I-① 「どろだんご」づくり +「スライム」 	18名	第2回	5月13日	I-② もっと光るピカピカ「どろだんご」づくり +「オニヤンマバランスストンボ」 	16名	第3回	6月24日	II-① 「ペットボトルロケット」づくり 	8名	第4回	7月8日	II-② 「ペットボトルロケット」を飛ばそう	12名	第5回	8月5日	II-③ 遠くまで飛ぶ「ペットボトルロケット」づくり	13名	第6回	10月14日	III-① 「どんぐりやじろべえ」づくり 	13名	第7回	11月4日	III-② かわいい「トトロどんぐりやじろべえ」づくり +「浮かぶビー玉オブジェ」	13名	第8回	11月25日	IV-① 身近な物を使った「空気砲」づくり +「膨らむマシュマロ」「CDホバークラフト」 「ペットボトル中で膨らむ風船」「こぼれない水」 	12名	第9回	12月9日	IV-② 遠くまで空気を飛ばす「空気砲」づくり	13名	第10回	12月23日	V もっとチャレンジ！～これまでの活動から選択～ +「ビー玉コマ」「うちわ回し」「リングキャッチャー」 	10名
回	実施日	活動内容	参加人数																																												
第1回	4月29日	I-① 「どろだんご」づくり +「スライム」 	18名																																												
第2回	5月13日	I-② もっと光るピカピカ「どろだんご」づくり +「オニヤンマバランスストンボ」 	16名																																												
第3回	6月24日	II-① 「ペットボトルロケット」づくり 	8名																																												
第4回	7月8日	II-② 「ペットボトルロケット」を飛ばそう	12名																																												
第5回	8月5日	II-③ 遠くまで飛ぶ「ペットボトルロケット」づくり	13名																																												
第6回	10月14日	III-① 「どんぐりやじろべえ」づくり 	13名																																												
第7回	11月4日	III-② かわいい「トトロどんぐりやじろべえ」づくり +「浮かぶビー玉オブジェ」	13名																																												
第8回	11月25日	IV-① 身近な物を使った「空気砲」づくり +「膨らむマシュマロ」「CDホバークラフト」 「ペットボトル中で膨らむ風船」「こぼれない水」 	12名																																												
第9回	12月9日	IV-② 遠くまで空気を飛ばす「空気砲」づくり	13名																																												
第10回	12月23日	V もっとチャレンジ！～これまでの活動から選択～ +「ビー玉コマ」「うちわ回し」「リングキャッチャー」 	10名																																												



第 6 回 どのどんぐりやじろえもバランスがとれています！



第 10 回 自分の好きなものづくりにチャレンジ！



◆実施に伴う効果

子ども達は毎回楽しんで活動に参加することができました。「来年も活動に参加したい！」という子どももたくさんいました。また、学生達も子ども達と一緒に充実した時間を過ごすことができました。活動実施後の学生の振り返りには、「子ども達と一緒に試行錯誤し、成功した時の達成感や嬉しさを味わうことができた」「子ども達がどんなことを楽しいと感じ、熱中するのかについて学ぶことができた」「司会をしながら活動と活動の繋ぎ目をスムーズに行うことの大変さを感じた」「子ども達全体に目を向けながら、一人一人の活動の進み具合に気を配ることの大切さがわかった」などがありました。将来、先生をめざす学生にとって大切な学びをいくつもすることができました。

◆苦労した点

年間通じて計画的に活動する試みは今年度初めてだったので、具体的な活動内容を考えたり、活動に向けて準備をしたりすることに苦労しました。どろだんごづくりをするために荒木田土を粉砕機で粉状にしたり、ペットボトルロケットが飛ぶかどうか何回も作って試したりしました。また、子ども達がどんぐりに穴を開けるために必要な工具を準備したり、空気砲から出た空気を可視化するためにどうすればいいか考えたりしました。苦労した点は多くありましたが、子ども達や学生達の喜ぶ顔を見るのが一番の喜びでした。

◆今後の課題・発展の方向性

年間を通して多くの学生達が活動に参加してくれました。しかし、子ども達を集めたり、活動内容を決めて準備したりする際、いつも学生中心というわけにはいきませんでした。来年度は、学生中心の活動になるよう取り組んでいきたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

支援していただいたおかげで、粉砕機やロケット飛ばしの道具、スモークマシン、どんぐり穴あけ器などいろいろなものを購入することができ、充実した活動を行うことができました。マツダ財団の方に心より感謝しています。

活動名	No.14	団体名	一般社団法人非営利団体みんなの家 House For All
グローバル時代に夢を持って自分らしく生きてゆく力を育む、小学生のための放課後インターナショナルスクール		活動拠点	広島市東区
		代表者	三宅ストーナー展子
		支援金額	30万円
団体紹介	<p>2019年7月結成。会員・ボランティア15名 通常週月曜日に、小学生を対象に多岐多様な体験学習を行う放課後児童クラブ。英語が飛び交う環境の中で直接、海外の人たちと交流する機会を頻繁にもち、日本並びに外国の伝統や文化を学び、グローバル社会で生きてゆくための土台作りをする。また子どもたちが主体的に選択する遊びを通して、自らのアイデンティティを形成し、考える力を育みながら、知的、社会的能力や感性を養う全人格教育を目指す。</p> <p><活動目標></p> <p>1.自己肯定感を養う 2.主体性思考力と自己表現力を養う 3.英語でのコミュニケーション能力を養う 4.多様性を受け入れる力を養う 5.生命の大切さと平和を尊ぶ力を養う</p>		
活動概要	<p>・毎週月曜日 15:00～18:30 ・実施場所 東区中山 みんなの家（みんなの家以外の課外活動は下に表記あり） ・参加人数：下に表記のない通常行事は大人4-5人、子ども5-6人</p> <p>◆◆◆2023年度活動（下線は新行事）◆◆◆</p> <p>1 通常の放課後体験学習 長期海外逗留経験を持つ日本人講師及び外国人講師、また各分野に長けた講師と直接、交流し、探求型遊びを楽しみながら、英語に親しみつつ、海外並びに日本の文化や伝統に触れる機会を持った。</p> <p>A. 常任日本人講師（主に海外逗留経験者）との体験学習</p> <p>(1) 英語ゲーム、おやつ作り、野菜栽培、自然工作、絵画、カード作り、ハロウィン仮装衣装作り、ハンドベル練習など。 (2) 日本伝統文化体験学習：茶の湯体験（ペルー人講師指導、5/15）、お月見（月にまつわる日本文化の学習 9/25）、生け花体験（自然と共に生きる日本文化の体験、2/19/2024 予定） (3) 一泊二日お泊まり会：炊事、片付け、遊びなど、全てを子供たちが主体的に計画し実行。</p> <p>B. 外国人講師たち（広島在住外国人）との直接交流</p> <p>(1) 海外の伝統的年間行事の由来や意味を学習： イースター（エッグハント/新しい命の発見、4/10）、ハロウィン（アメリカ人講師の指導でジャックオーランタン作り 10/23、仮装して近隣訪問 10/30）、感謝祭（中山新町鈴が丘集会所で家族、友人、地域の人たち並びに諸外国の人たちと ONE BIG FAMILY というテーマで恒例の七面鳥とパンキンパイの食卓を囲む。11/26、子供17人、大人海外から18人 日本から22人）、クリスマス（安佐南区の高齢者支援ホーム3軒でハンドベルによるクリスマスキャロルの慰問演奏。12/23,25） (2) 海外の文化、生活、歴史を学習：トルコ(6/5)、ペルー(8/28) (3) 多文化共生学習：みんなの家と鈴が丘集会所でアメリカとスコットランド出身の講師達の指導により、協調的、包括的、革新的な国際的視野を養う目的で多文化教育体験学習並びに変革のためのデザインアプローチが紹介された。7/23、7/25-27、7/30-31、8/2-3、8/7-8、. 延べ参加人数 子供95人、大人52人</p> <p>2 特別野外学習課外活動（学校が休みの時など）</p> <p>●安佐南区の子供発達支援センター認定 NPO 法人ひゅーるぼんへの訪問。ハンドベル演奏をし、センターの子供たちと昼食を一緒に作り、交流の1日を持つ。7/24 子供5人、大人3人。 ●三滝少年自然の家で一泊二日のキャンプを日本をはじめ、イラン、アメリカ、スコットランド、ベトナムからの講師の参加を得て行う。今年は野外炊飯を行い協力的なチームワークで美味しい晩御飯を作り、キャンプファイヤー、アスレチックで盛り上がり、木工作、英語劇では子供達が率先性を発揮した。7/30,31 子供12人、大人7人。 ●ひろしま美術館を訪問。「堀内誠一の"絵の世界"」を鑑賞。8/17、子供5人、大人3人。 ●広島県ユニセフ協会訪問。ウクライナなどの戦事国や支援の必要な国の子供たちの暮らしについて学び、児童労働をテーマにしたワークショップに参加。児童権利条約の多岐にわたる権利の側面のあることを知る。8/21。子供5人、大人4人。 ●平和公園で世界の人たちを英語でインタビュー。戦争惨事のニュースが頻繁に流れ、子供達の意識も高まる中、世界地図を片手に、海外の人たちの思いを聞いた。また外国の人たちをインタビューしたいと意欲を燃やす子供もいた。8/21。子供4人、大人4人。1/8 子供6人、大人4人 ●高齢者支援ホームでクリスマスのハンドベル慰問演奏。12/23 介護支援施設あゆみ祇園クリニックにて子供6人、大人3人。12/25 特別養護老人ホーム春日野園、野村病院デイサービスぎおんにて子供6人、大人2人。</p>		



初めての野外炊飯でハッシュドビーフを作る子ども達と見守る外国人の講師達。



マッシュマロとパスタを自由自在に組み立てる多文化共生学習の授業風景。



外国の友人、近所の方々、学校の友達や家族と共に感謝祭を祝う。



平和を希求する人々で溢れた平和公園インタビューに熱がこもる。

◆実施に伴う効果

自分とは異なる文化や生活様式を持つ海外の人たちと子供達が直接関わりながら、日本を超えた世界に目を開き、その多様性に気づきはじめた。そして多文化環境に慣れるにつれ、それが少しずつ子供たち自身の日常となって来たようだ。又、同時に日本の伝統文化の独自性を発見できたことも有意義であったと思う。

子供達の個性を尊重し、主体性を育ててゆこうとする様々な背景の講師たちによる多岐多様な体験学習を通し、子供達は自らの興味、関心を見つけ、その潜在能力を顕在化し始めてきたように思う。

◆苦労した点

1. 普段、否定や命令を子供たちにしないように心がけ、問題が起きた際、一緒に打開策を考えるよう努めている。だが一斉一律的な教育システムの中にいる子供たちは、追従や反発かの2極的反応となってしまうがちである。家庭、学校、地域と協力しながら自己意識を高め、自ら考え、多様性を持つ視点を養う教育システムが必須である。

2. 通常の児童館や英語塾ではない「みんなの家」は、一般の人たちにとってなじみが薄い。どう紹介すれば、もっと親しみやすいイメージとして捉えられ、生徒数も増えていくのか。自治会への挨拶、感謝祭ディナーへの招待もしているが、地域との関係作りに苦労している。

◆今後の課題・発展の方向性

対立と分断の続く世界に、今必要なのは、相互理解を促進し、懸け橋となるグローバルリーダーであり、そして、グローバルリーダーを育成する国際理解教育である。そのためにも多文化共生学習を続け、子供たちがより多様な視点を持ち、より広範な視野を広げてゆけるような活動を継続してゆきたい。課題としては、現今の状況に即した多文化共生分野の知識を私たちが深め、それを体験学習として子供たちに提供するカリキュラムを作成する必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

子供達の心が動く瞬間、そして成長のきっかけを作るには、何よりも子供達との信頼関係、子どもたち同士の横のつながり、そして安心して自己表現できる居場所づくりが必須であることを、この度もまた再確認した。

活動名	No.15	団体名	特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう
20周年記念事業		活動拠点	三次市
		代表者	檜谷 義彦
		支援金額	45万円

団体紹介

【結成時期】2003年5月（2012年NPO法人化）

【目的】自然豊かで昔からの暮らしが今なお残る「ふるさと」の教育力・癒しの力・居場所としての機能・自然と人との共生力・農的な暮らしの知恵や農村景観などを活かしたさまざまな活動を通して、これからのふるさとづくりと未来を担う人づくりを推進することをもって、持続可能な地域社会づくりに寄与すること（定款より）

【主な活動内容】廃校となった木造校舎を活用した都市農村交流施設を拠点に、「100年後の子どもたちにふるさとをつなごう」を合言葉とした自然体験・環境教育・次世代育成・居場所づくり・交流による地域づくりを行っている。

活動概要

■11月3日（祝）20周年記念祝賀会 in ほしはら山のがっこう

20年間を支えていただいた行政・地域住民・卒業生・参加者・ボランティア・スタッフ、またご来賓の方々をお迎えし、総勢90名が集い、節目を祝うと同時に、活動報告を行った。また地元住民による出し物や恵比寿舞い、餅まきが行われた。

【活動報告】「廃校活用の地域づくり」上田町内会長 金末忠則／「体験交流の20年間」ふるさと自然体験塾長 浦田 愛／「体験交流と中山間のこれからの地域づくりー共同研究20周年アンケート調査結果から見えるものー」島根県中山間地域研究センター 貫田理紗



20周年記念祝賀会 活動報告の様子

■11月3日（祝）～5日（日）20周年記念キャンプ in ほしはら山のがっこう

20年間のふるさと自然体験塾の参加者やボランティア・スタッフを中心に、延べ250名が集まり、思い出やこれからの夢を語り合い、節目を祝うキャンプを行い、絆を深めた。



20周年記念事業 全員集合

■11月4日（土）～10日（金）写真展「20年の歩み」 in ほしはら山のがっこう体育館

20年間のふるさと自然体験の取組について、写真展を通して、地元住民やこれまでの参加者、関係者に伝えた。



活動写真展 案内チラシ

■3月11日（月）～25日（月）写真展「20年の歩み」 in ショッピングセンターサングリーン（三次市）

20年間のふるさと自然体験の取組について、写真展を通して、広く市民に自然体験の今日的な意義を伝えた。

■3月末 20周年記念誌発行

20年間のふるさと自然体験の取組の記録や、この20年の間に参加した子ども、保護者、ボランティアスタッフへの成長や影響の調査結果を掲載した。

◆実施に伴う効果

- ・20周年祝賀会やキャンプは、準備から実施～片付けまで、地元住民やボランティアスタッフが大勢関わり手づくりの中で盛大に行うことができた。地元の方からは「感動した。過疎高齢化が進む地域でこんなに賑やかに楽しく過ごしたことは思い出にずっと残る」との声をいただいた。多様な人々が、居住場所、年代、職業や所属、関わった年月数や役割などを問わず、ひとつの時間を過ごせる場を持てたことは、この場を実現した多くの方々の方々の力と想いによるものであり、未来への誇りとなった。
- ・写真展では、これまで20年間の取組のなかで、自然と人、地域と人が関わり合う場面を切り取った写真約180点を展示することができた。特に写真の中の子どもの表情には惹き付けられるものがあり、実体験の意義や体験によって育つチカラを感じていただくことが出来た。
- ・20周年記念誌の制作によって、これまでの歴史や想い、参加者の声を未来につなげる冊子が出来た。

2023年度 公益財団法人 マツダ財団内務課企画推進課
ほしほら山のがっこう
「20周年記念誌」
 購入予約のご案内

2023年、ほしほら山のがっこうは創立より20周年を迎えることになりました。これまで20年間、ほしほら山のがっこうの活動の歴史や思い出を伝えるための活動の中で、「自然と人」「人と人」「都市と農村」がつながりあって、たくさんの人とつながりをもつことができました。また、多くの方々の関わりによって、「ふるさと」が大切に守られ、人々の暮らしが豊かになる場づくりを行ってまいりました。そこで、これまでの活動を振り返るため、「20周年記念誌」を発行する運びとなりました。想いの記憶をはじめ、活動に参画いただいた皆様の方々に、ぜひとも購入いただきたく思いますように案内申し上げます。

NPO法人ほしほら山のがっこう
 設立20周年記念事業実行委員会 事務局 清田 優

ほしほら山のがっこう「20周年記念誌」
 ●紙面仕様：1冊 1,500円 ※送料は別途お見積りいたします
 ●体 積：A4サイズ 約72ページ（オールカラー）
 ※紙質はA4サイズより厚手の紙を使用し、印刷は高品質の印刷機を使用しております。
 ※印刷・送料別、送料は別途お見積りいたします。送料は別途お見積りいたします。

※お問い合わせ先
 〒720-0001 広島県三原市上庄町388 ほしほら山のがっこう
 電話083-95-2388 メール info@hoshihoragaku.org

ほしほら山のがっこう20周年記念誌の購入代金を送って申し込みます。**（送料は別途お見積りいたします）**

氏名	住所	及び	連絡先電話番号	部数	発送	領収済
				部	済	済
				部	済	済

※お問い合わせ先
 〒720-0001 広島県三原市上庄町388 ほしほら山のがっこう
 電話083-95-2388 メール info@hoshihoragaku.org

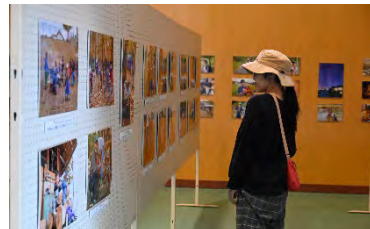
20周年記念誌 購入予約チラシ



20周年記念事業 準備作業ボランティア



20周年記念祝賀会 地元の出し物



写真展の様子

◆苦労した点

- ・20周年祝賀会やキャンプは、様々なアイデアや企画が次々と生まれ、それぞれの意見や想いを生かすため、準備や調整に苦労した。
- ・多様な人々が関わり合う場であることから、それぞれが居心地よく、楽しく過ごせるようにするにはどうしたらよいか、という点はやりがいがありつつ、大変でもあった。
- ・記念誌の制作では、20年間の膨大なストーリーや写真、アンケートに寄せられたたくさんの自由記述の中から何を選んでどのように掲載するか、苦労した。
- ・20周年記念事業にかかる業務量が想定外に大きくなり、多くの方々のサポートに感謝する。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・20周年事業の祝賀会やキャンプなどで得たツナガリを今後を生かす。
- ・参加者アンケートや聞き取りの声を元に、これからの活動において未来に引き継ぎたいこと、大事にしていきたいことについて初心に還って見つめなおし、また発信していく。
- ・自然体験の場～特に「ふるさと」の体験が、ますます子どもの日常社会から失われていっていることを我々は課題と捉えている。SDGsが叫ばれる今こそ、「ふるさと」のかけがえのない自然や文化を未来につなぎ、支える人材育成の場が必要である。20周年アンケートや聞き取りの結果を元に、実体験の必要性を伝えると同時に、多くの方と語り合い、子どもたちが実体験を得られる場を広げるための活動を継続していく。

◆活動を終えての感想・意見等

多くの方々の支えなくしてはこの20年間は語れない。ひとりひとりの顔を浮かべながら関係者一同感謝の気持ちでいっぱいである。この度のマツダ財団様のご助成と様々なサポートに心から感謝申し上げますと同時に、今後とも子どもたちが健やかで豊かな人生を送れる社会づくりと、そこからつながっていく笑顔あふれる未来に対し、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

活動名	No.16	団体名	口和「新月マルシェ」の会
和げん「新月マルシェ」&お出かけ「満月マルシェ」		活動拠点	庄原市
		代表者	三上 紀子
		支援金額	24万円

団体紹介

口和「新月マルシェ」の会は、地域で創業しているものづくりの生産者を中心に、マルシェを通して、人が繋がり、笑顔の輪が広がり、住みよい街となるように、地域交流の場をつくる活動を行っています。2020年1月より、和暦各月の一日に当たる新月の日に、古民家で和げん「新月マルシェ」を定期市として開催し、必要に応じてお出かけ「満月マルシェ」を行っています。

町内は、買物ができる商店や飲食店、人々が何気なく集まってくつろいだりおしゃべりをしたりする場がとても少なく、子どもたちが自由に過ごせる遊び場に集まることも難しい現状です。マルシェといえば個人販売がメインのイメージですが、参加者のニーズの把握に努め、他者とのつながりを深め、元気で安心して暮らせる地域づくりの一助になることを願って活動しています。

活動概要

和げん「新月マルシェ」は第42回の開催を迎えました。地域の生産者や事業者による物品の展示や販売、サービスや体験を提供するワークショップの運営、くつろぎスペースの設置、各種イベント、注文販売等を行い、また、お出かけ「満月マルシェ」として地域の行事や各種団体のイベント時に移動マルシェを行っています。

近所の加工所の高齢者の方の生きがいのひとつになったと喜ばれたり、店舗販売を行っていない地域の生産者による物品の展示や販売の機会を増やすことができたり、ワークショップやボランティアによるサービス提供の場を設けて体験活動やイベントに参加してもらったり、移動マルシェや注文販売でマルシェに来られない人たちにも買物を楽しんでもらったり、イベントの盛り上げに一役買ったりしています。

今年度は、マルシェ時の子ども向けイベントをさらに充実させ、楽しく遊べ、自己表現や自己実現ができる居場所づくりをめざして活動しました。実施日、場所、内容は下記のチラシの通りです。





◆実施に伴う効果

スタートから3年間の活動の延長として継続することを通して、地域おこしの活動として認められ口和自治振興区や各種団体から出店の依頼を受けるようになり、平日開催時は穏やかな時間が流れ、休日開催の時親子連れで賑わうようになりました。注文販売を心待ちにしてくださる方もいらっしゃいます。

子どもも大人も一緒になって、カードゲーム、バルーンアート、凧あげ、お花・お茶・浴衣の和文化を楽しんだり、ボランティアや子ども司書たちの絵本の読み語りやダンサーとバンドのコラボによるミニパフォーマンスステージが実現したり、自己表現を通して新たな出会いや自己実現のできる場となりました。

季節イベントとして、自治会との共催による「新月マルシェ～ほたる見ナイト～」と中秋の名月の日に開催する「新月マルシェ～観月ナイト～」は会員と地域に定着しました。

◆苦勞した点

口和「新月マルシェ」の会の活動は、多様なボランティア精神に支えられて成り立っていますが、会員である起業者がマルシェを開くというわずかでも営利を伴う活動と直結しています。それはこの活動が少ない予算で継続できる基盤でもあるのですが、2023年度は新型コロナ感染拡大による制限が緩和されたことにより様々なイベントや行事が再開され、各出店者が忙しくなり、新月マルシェの運営にも影響ができました。学校行事も復活し、児童生徒の表現活動の場も増えていきました。新月の日が平日であることが多く、子どもたちが参加できる日が限られました。そのような状況の中でできることを模索しながら、今年度も昨年度より進化発展のある活動になったと思っています。

多くの支援金を頂きながら日程の都合上、年度内に「選べる教育の形講演会」当日を迎えることができなかったのは残念ですが、計画を実行するにあたり、これからの方向性をじっくり考えることができました。それに向けた一歩として「新月マルシェ」内に子どもたちの自主性による遊びコーナーやスクールカウンセラーによる子育てサポートコーナーができています。

◆今後の課題・発展の方向性

- 子どもや車の運転ができない高齢者など、交通手段がない人のための送迎システムを検討中
- 開催の周知は各所へのポスター掲示と SNS で行っているが、少負担で効果的な宣伝方法を模索中
- 身近な人が話し手の「生きる」を考えるミニお話し会を企画中

子どものニーズをつかんで、やりたいことを引出し、来たい場所になるように、子どもの居場所としての機能を強化していきたい。そして、世代間交流をはかりながら、全世代が自己表現・自己実現をかなえるための場を創造していきたいです。そのためにも新たにニーズを探ることに力を入れていくつもりです。今後もまた支援していただけるような活動を、息切れしないペースで楽しく継続していきます。

◆活動を終えての感想・意見等

コロナ禍にスタートして苦勞はしましたが、それゆえに工夫できたことも多かったことに気づかされた一年でした。この活動を続けられていることに感謝し、未永く続けていくことが大切だと実感しています。また、活動が広がって新しい出会いや発見があり、今後の財産となりました。

活動名	No.17	団体名	鞆のくらしの診療所
鞆から始める！子ども主体の地域診断プロジェクト		活動拠点	福山市
		代表者	平岩 千尋
		支援金額	30万円

団体紹介

鞆の浦ならではの地域診断を行うことを主な目的として結成しました。地域診断とは、一般的には公衆衛生を担う専門家が、地域活動を通して地域の課題を明らかにし、活動を通して個人のケアに留まらず、集団あるいは地域を対象にケアを行い、地域課題を軽減・解消していく一連のプロセスです。鞆の浦の地域診断が円滑に行われ、地域の誰一人取り残さないアクションプランが実行される風土としくみを作るために、また、地域全体の健康増進のために、その導入である「子ども主体の地域診断プロジェクト」が継続的に行われることを目指しています。

具体的な活動指針は以下です。

- ① 鞆地域における健康課題を見つけ、必要に応じて介入を行う
- ② 地域住民の医療へのハードルを下げ、健康への意識を高める
- ③ 社会的処方などを通してまちづくりに参画する

活動概要

2022年10月～12月にかけて、鞆の浦学園5年生約25名を対象にオンラインと対面を組み合わせた授業を計3日間実施しました。地域の高齢者との対話や学習ワークも活発に行われ、先生方や地域の方にも好評で、継続した実施を望まれていたため、2023年度も小学校5年生に対して実施しました。

1日目はオンラインで健康に関する授業を行いました。健康は体のことだけではなく、心や社会的背景も大きく影響されるということ、例を呈示しながら考えました。2日目は、まず学校（鞆の浦学園）でインタビューレクチャーを行い、その後実際に地域に出て地域の高齢者を対象にインタビューワークを行いました。インタビューでは「空き家が心配」「車に乗れなくなる」「夜が寂しい」「あまり家からでない」など、困りごとをたくさん伺うことができました。また、「狩猟をしている」「散歩をしている」「友人とお茶を飲むのが楽しい」など良い点や強みも教えてもらうことができました。

3日目は2日目に行ったインタビューワークで集めた情報をもとに健康カードづくりと、改善していくためのアクションプランをグループで考え、発表を行いました。

具体的には、インタビューの中で「免許を返納した」「運転ができない」という話を聞き、移動範囲が狭くなるのが今後困るだろうと考え、解決策として「一緒に外に出る」「お店を作る」などの意見が出ました。





◆実施に伴う効果

子どもたちと高齢者が交流をもつ機会がそもそも今までほとんどなかったが、この活動を通して地域の高齢者との距離が縮まり日常生活においても声掛けをするようになっていきます。また、互いに見守りながら地域で暮らし、もっと地域をよくするにはどうすればよいのかを子どもたちが真剣に考える機会が増えています。考えたことを実践に移す挑戦ができる土壌が町の土地や学校にはあり、実際に行動を起こすことができている。

◆苦労した点

街で普段出会う機会や、話す機会のない高齢者に対してインタビューを行うことに対してハードルが高く感じている小学生もあり、インタビュー中に感情があふれ出し涙を流してしまったりインタビューができない子どももいました。その点に関しては、どう対応するのが良いのか、内容をもう少し簡単なものにするなどの検討や改善が今後は必要な可能性があると考えています。

◆今後の課題・発展の方向性



インタビューを行い、自分たちができる解決策を考える授業だったのですが、そこからアクションにつなげていくことが子どもたちだけではなく我々にとっても課題だと思っています。今後も子どもたちと一緒に地域診断を続けていきます。毎年町の浦学園で行い、子どもたちがインタビューした内容も蓄積し地域診断に厚みが出ていくと同時に、同様の内容を全国においても各地域で展開できれば、より多くの地域の課題解決につながる可能性があると考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

子どもたちでなければ引き出すことのできない言葉をインタビューで引き出すことができたり、出てきた課題に対する解決策が子どもたちのほうがよりシンプルに考えて導いている場面にあたりすることで、小学生ならではのワークショップの良さを感じました。一方で、昨年度と比較し学年によっても難易度の感じ方は違うのだと実感し、難易度調整も必要であることを気づかされました。ただ、ゴールを無意識に設定してしまっていることが自覚でき、今後の活動においての方針を決めるためにとても学びになりました。

活動名	No.18	団体名	子どもが科学に親しむ場を創る会
「福山のばら」でお香開発		活動拠点	福山市
		代表者	三谷 干城
		支援金額	30万円

団体紹介	
結成の時期	2021年 11月
構成メンバー総勢 (27) 名	内訳 ; 30代 (2) 40代 (2) 50代 (8) 60代 (8) 70以上 (7) 女性 (4) 男性 (23) (人数)
結成の目的 (活動方針)	本会は、福山市と広島県が進めている (仮称) 子ども未来館整備の活動を支援し、館完成後市民がソフトランディングできる環境を福山の地に醸成する活動を、市民中心に行うことを目的とする。

活動概要	
<p>福山市立光小学校6年生 (50人) による「光小ばらプロジェクト」と地元有志 (子どもが科学に親しむ場を創る会会員) は力を合わせ、昨年うまく行かなかったテーマ (福山のばらでお香を作ろう) の水蒸気蒸留の実験に改善を加えて、取り組んだ。昨年の蒸留装置は銅製であったので中の様子が分からず、ばらの沸騰水の採取となったので、今回はガラスの実験器具を用いて再度挑戦した。工法はばらの蒸留水にパウダー (タバ粉) とばらオイルを混ぜて粘土状にして、型にはめて作り乾燥させる方法である。(昨年特許申請済み)</p> <p>3月14日 (火) 5年生/6年生引継ぎ式 (5年生の質問風景 ; 写真1)</p> <p>5月11日 (木) 6年生お香作り体験 (写真2)</p> <p>7月24日 (月) 上田農学博士のばらの授業 (写真3) 取材 ; BJ (ビジネス情報)</p> <p>9月22日 (金) サブテキスト「あなたの街の新発見」を6年生全員に配布 取材 ; BJ,中国新聞 (記事1)</p> <p>10月27日 (金) <公開授業> 水蒸気蒸留とお香作り体験 (写真4) 取材 ; BJ、中国新聞、山陽新聞</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>(記事1) 中国新聞</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>(今年の特許) パウダーとハマナスだけのお香作りの特許</p> </div>
	



(写真1) 5年生/6年生引継ぎ式 (5年生の質問)



(写真2) 6年生お香作り体験



(写真3) 上田農学博士のぼらの授業



(写真4) 水蒸気蒸留実験(公開授業)

◆実施に伴う効果

感動のドラマを生んだお香作り

2022 年度からマツダ財団より活動支援をもらい進めてきた「[福山のぼら] でお香開発」は「0.02%の壁に挑戦」を合言葉に進めてきた。公開授業で水蒸気蒸留に失敗し、新しい課題「見える化」の重要性、「なぜ学校の理科実験にガラス器具を使うか」を期せずして体験学んだ。

2023年度は「ハマナスの壁に挑戦」を合言葉に進めた。結果、ハマナスの壁が非常に高く、乗り越えられなかったが、児童は、実験が済むと一斉に「バンザイ！」を叫ぶという感動のドラマを生んだ。2023年10月27日 光小学校理科実験室での「[福山のぼら] でお香開発」の公開授業の時のこと。実験室で6年生から選ばれた8名（女子6名、男子2名）による水蒸気蒸留実験中だった。8名による実験はライブで6年生全員が教室でタブレットを用いて視聴していた。各報道機関の記者たちもぼらの蒸留水を採取する様子に注目していた。時計係の児童が、「おかしい、昨日のリハーサルでは、10分で15ccのバラ蒸留水が取れたのに、今日は15分経っても取れない」と言った。するとある児童が、ここから水蒸気が漏れているとホースとガラスのつなぎ目を指さした。熱いので慎重につなぎなおし、目標の15ccが取れた。昨年の沸騰水ではなく、規定量の無色透明なぼらの蒸留水が取れた。私が、「今回はうまく行った」と言ったら、8名が一斉に立ち上がり、「バンザイ」と叫んだ。彼らはこの実験を通して感動のドラマを生んだ。

◆苦労した点

昨年度の失敗を乗り越えたことはよかったが、合言葉の「ハマナスの壁」は乗り越えられなかった。実験条件をパラメータとし、50回を超える水蒸気蒸留の実験をしたが、2022年の6月に一度だけできたハマナスのお香はできなかった。今回のハマナスのお香は、パウダーの香りが強く、ハマナスの優しい香りの再現はできなかった。しかしハマナスの蒸留水とパウダーのお香は、普通のバラとパウダーのお香と違い、カビが生えないことを発見した。これは、ハマナスの抗菌作用によることを体験と文献で学んだ。

◆今後の課題・発展の方向性

ハマナスの花は、年に一度春にしか咲かないので、2023年の実験には、私たちが植えたハマナスの花は使えず、以前良い香りがしたハマナスを購入した業者から今年も購入したが、再現しなかった。しかし私たちは今年ハマナスの苗木を6本購入して植えているので、2024年の5月には私たちが育てたハマナスで実験ができる。

2025年の福山における世界バラ会議の来客に配る「福山のぼら」を使ったお香は福山のぼら水蒸気蒸留した蒸留水に市販のぼらオイルを鼻薬として使用したお香を配る。これは、香りが強く、外国人にかいでもらうと人気がいいのでこちらに決めた。ハマナスのお香は日本的で優しい香りで、小学生には人気が高いが・・・。

◆活動を終えての感想・意見等

私たちは香りの再現性の難しさを学んだ。ハマナスの香りは、土壌の性質、気候、採花の時刻など多くの要素の影響を受けており、二度同じ香りができることはまれであるようだ。従って香りは化学的に合成されたものが用いられているという（大分香りの博物館）。昨年のハマナスのお香に、私たちは「**奇跡の香り**」と名づけた。

活動名	No.19	団体名	一般社団法人まなびのみなと
高校生マイプロジェクトアワード 広島県 Summit		活動拠点	豊田郡大崎上島町
		代表者	取釜 宏行
		支援金額	45万円
団体紹介	<p>『誰もが学びに出会う日常を』</p> <p>2019年5月に結成。生徒数減少により統廃合の危機にあった広島県立大崎海星高校で、全国生徒募集と地域ならではの教育のあり方を探究する『大崎海星高校魅力化プロジェクト』のメンバーを中心に組織された団体です。学校と地域を横断し、垣根を超えて地域全体で学びを作り出すことを目的に活動しています。学校だけでなく仕事や趣味、家庭などあらゆる日常の中に存在する学びの機会に、誰もが出会い、一人ひとりがその学びを深めていくような社会の実現を目指します。</p>		
活動概要	<p>高校生が自らプロジェクトを立ち上げ、そのアクションから得た気づきや学びを発表する『高校生マイプロジェクトアワード 広島県 Summit』を運営しています。3年連続3回目となる今年度の広島県 Summit は1/28(日)に安田女子中学高等学校で開催され、県内17の高校から32プロジェクト・70名が参加。高校生にアドバイスを送る社会人サポーター・ファシリテーター28名に加え、運営スタッフ20名と引率・観覧で来場いただいた60名の大人が発表を見守りました。</p> <p>高校生が「学び」の目的を自ら見出し、困難や難しさに直面しながらもプロジェクトを進めていくプロセスに、大人もたくさんのごことを気付かされました。高校生による10分間の発表の後、対話の時間を15分設定することで、つくりたい未来に向けて対話し、大人も高校生も互いに学び合う関係性ができあがった1日でした。</p> <p>また最終発表の機会を提供するだけでなく、7月のスタートアップキャンプに始まり、2ヶ月に1回ペースで年間6回開催したプログラムを通して、高校生がプロジェクトのきっかけを見つけ出し自走していくサポートを行いました。こちらは各地域のコミュニティマネージャーが常駐するワーキング施設を開催場所とすることで、地域に高校生×大人の交流機会を作り出すことを意識しました。</p> <p>また、学校では「総合的な探究の時間」という授業が始まり、先生たちが高校生のプロジェクトに伴奏していますが、各学校で奮闘する先生たち同士を繋ぎ横のつながりを作る「ひろしま探究ラーニングコミュニティ」も運営し、年間4回のオンライン勉強会を実施しました。</p>		



通称“マイプロ”



約180名が集まったマイプロジェクトアワード広島県 Summit



大学生も高校生の学びをサポート



大崎上島でスタートアップキャンプを開催

◆実施に伴う効果

マイプロジェクトアワード広島県Summit参加高校生を対象とした満足度アンケートにて、4段階中3.83と高い満足度となりました。「熱意のあるプレゼンに触れ、刺激をもらったり、似たような探究活動をしている高校生とつながることができたり、学びがあり今後のアクションプランが立った。他校の生徒が多様な方法で地域の課題にアプローチしていることを知り、共感したり、新たな視点や考え方を得たりすることができた」という高校生の感想コメントに象徴されるように、高校生が同世代から刺激を受け、仲間を作り、再度アクションを起こすという形で各地域のプレーヤーの一員になっていく流れが生まれています。また、当日引率で参加されていた先生からは「高校生の学びに追いつかないといけないのは、我々教員だと気づきました」というコメントをいただきましたが、高校生自身が学校教育アップデートのきっかけになること、その動きが日本全体に広がっていくことは、日本の社会にとって大きな意味を持つと考えています。

◆苦労した点

高校生マイプロジェクトアワードへ参加することにどんな意味・効果があるのか、高校生も大人もそこでどんな学びや気づきを獲得できるのかということは、実際に参加して会場の熱気を体感しないと分かり得ない部分が大きいと思っています。とにかく多くの高校生・先生・企業人や地域プレーヤーにその熱量を伝えるため、1年間地道に県内各地の学校訪問・企業訪問を続けました。私たちが離島・大崎上島を拠点に活動していることもあり、いま振り返っても大変な1年間でしたが、その苦労が高校生の未来や地域の未来に直結するんだと言い聞かせながら継続しました。マイプロジェクトアワード当日に高校生からもらった熱を、また今後1年間の活動のエネルギーに変換していきたいと思っています。

◆今後の課題・発展の方向性

この2年、試行錯誤しながら創り上げてきた活動を更に拡大・加速させるべく、これまでの活動内容は継続しながら、高校生の活動に関わる教員以外の大人を増やしていくことを目的としたプログラムを増やしていきます。具体的には、県内各地にあるコワーキングスペースと連携しながら高校生と大人が学び合う機会を創出し、高校生の活動支援だけでなく、高校生が大人をエンパワーしその地域が活性化していく仕組みづくりに着手します。学校への講演・研修や、教員向けのオンライン勉強会は継続していきますが、それだけに終始せず、高校生をプレーヤーとして捉え一緒に活動してくれる地域側の大人を増やし、その方々と協働する機会を増やしていきます。

◆活動を終えての感想・意見等

マイプロジェクトアワードの活動を通して、たくさんの仲間ができました。

高校生の発表を通して、たくさんの学びに出会うことができました。

自分自身がいちばん学び楽しんでいることを自覚し、今後も活動を続けていきたいと思っています。

活動名	No.20	団体名	うべ交通まちづくり市民会議
生徒と住民参加による校区通学路の自転車デジタルマップづくりとルール啓発の取り組み		活動拠点	宇部市
		代表者	村上 ひとみ
		支援金額	20万円

団体紹介

本団体は、2010年に設立し、宇部地域の交通環境の改善に向け、市民の立場で自らの行動変革を促す活動を実行することにより、人にやさしく車に頼りすぎない持続可能な地域社会の実現を目的としている。近年は主にエコな自転車交通の環境改善をめざして、当事者の高校生や中学生などの意見を集め、行政にはたらきかけ道路の改善・ルール啓発の両面から取り組んでいる。主な活動を以下に挙げる。

1) 自転車交通ルールと事故防止の啓発：自転車ブックレットをオリジナルで作成し、毎年卒業時期に宇部市内の中学3年生全生徒に配布。2) 高校生や中学生と自転車通学路点検ワークショップを開催し、自転車ナビマークなど整備の意義と、自転車通行方法を啓発、自転車走行空間整備を要望。3) 宇部地域の自転車交通に関わる当事者意見交換会の開催（道路管理者の市や県、交通管理者の警察、教育委員会、市役所交通安全担当などが情報共有）。

活動概要

- ・目的：自転車通学路の危険個所と交通ルールの基本を知り、西岐波中学生が安心・安全に通学することができるようにする。取組により自転車利用環境の改善を、学校で周知し、地域住民や行政、警察に要請していく。
- ・場所：宇部市立西岐波中学校は郊外に立地し、交通量の多い国道190号線が通り、丘陵地に狭い街路が広がっている。生徒数420名、自転車通学率は55%と高い。通学に加えて部活で自転車を利用する生徒を併せて約80%に及び、自転車通学路の危険個所と交通ルールの意義を、生徒と共に考えるワークショップは重要である。
- ・実施日：第1回ワークショップ：2023年7月27日（木）8：30～11：00
第2回ワークショップ：2023年8月2日（水）8：50～12：00
- ・参加人数：生徒14名、教諭5名、うべこまちスタッフ5名、宇部市道路整備課1名、山口県警2名
- ・内容：第1回、特徴的な通学路4ルートを設定し、4班の生徒ほかグループで自転車を押し歩きまたは乗車して、自転車通行方法、危険個所、注意点など話し合い、写真を撮影。
第2回、図書室に地図を広げ、調査ルートに沿って現地調査で気づいた危険個所をマークし、写真を貼って、自転車通学路危険マップを手作業作成。交差点模型で自転車と車の出会い頭衝突と、左側通行の大切さ指導。
- ・参加生徒は、WSの成果を活かし、自転車ハザードマップを仕上げ、同校文化祭で成果発表、掲示した。
- ・WS調査ルート、注意箇所等をGoogleマイマップに集約、写真を掲載して教員、生徒が共有できるよう工夫。



第1回 WS: 自転車通学路点検、野外調査、生徒と共に



第2回 WS: 自転車危険個所マップづくり



自転車ハザードマップ手作業で、注意箇所



参加生徒、校長先生、警察官、宇部市職員、うべこまち仲間

◆実施に伴う効果

- ・参加生徒は、今回の自転車通学路点検ワークショップの成果を活かし、自転車ハザードマップを仕上げ、中学校の文化祭で成果発表、掲示した。
- ・宇部市役所で道路整備と自転車ネットワーク計画担当の職員がWSに参加し、もっとも自転車を利用する当事者、生徒の率直な声、要望を聞くなど、意見交換は有意義だった。
- ・山口県警察本部から交通企画課の警察官と宇部警察署の警察官が通学路点検とマップづくりのワークショップに参加し、交通安全指導の改善及び、生徒にとって、よい学びの機会になった。
- ・宇部日報紙、2023.7.28付けで「自転車通学路の危険箇所調査・うべこまちと西岐波中がワークショップ」が掲載され、市民や行政への情報発信ができた。

◆苦労した点

自転車ワークショップの実施案について、市教委の社会教育課から、中学校に意向を打診してもらい、校長先生に説明に行き、担当教員との事前打ち合わせなど、手順を踏んで、時間をかけて進める必要があった。

校区は広く、地形、道路交通環境も変化に富んでいるため、自転車通学ルートの調査路線を事前に動画で撮影するなど、自転車走行空間の整備や事故原因に知識がない、生徒や先生方に分かり易い動画や写真の準備に工夫が必要だった。

自転車通学路危険マップをデジタル活用作成の予定でしたが、生徒との作業時間確保が難しく、うべこまち主体で、Googleマイマップにより調査ルート、注意箇所、写真などを掲載試作し、意見を聞いている。

◆今後の課題・発展の方向性

宇部市の自転車活用推進計画に掲載の自転車ネットワーク計画は市の中心市街地に留まっているが、郊外部の学校でも自転車通学は多く、JR 宇部線や山陽本線の駅も立地する、宇部市西部の厚南地域の学校と協議して、自転車ワークショップを発展、定着していきたい。そのことにより、自転車レーンや車道混在の自転車ナビマークの整備を拡げ、人と環境にやさしい、自転車が安全に利用しやすい道路交通環境に寄与していきたい。活動を宇部市の枠に留めず、他地域と交流しながら進めたい。メンバーが固定化しているので、地域活動の楽しさを SNS などで情報発信し、若い世代で関心ある仲間を募ってきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

中学生との交流、通学路を自転車で走行観察し、話し合う体験は有意義で楽しい。中学生と高校生が交流するなど、地域のコミュニティースクールの取組みに加えるなど、持続的な活動が望ましい。

マツダ財団の支援により情報を届けて頂き、他の活動団体との交流機会があって、視野が広がったことなど、感謝いたします。

活動名	No.21	団体名	遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会
第4回「ふくろう公園インクルーシブ DAY」		活動拠点	岩国市
		代表者	橋本 尚理
		支援金額	30万円
団体紹介	<p>(結成時期) 令和3年8月26日</p> <p>(構成メンバー) 岩国総合支援学校 PTA、障がい児支援施設、地方議員他</p> <p>(結成の目的) 公園等身近な遊び場に於いて、障がいのある子がそれぞれの特性に応じ、自らの力を生き生きと発揮し、安心して遊び育つことができる環境を作る。</p> <p>(活動方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ公園の整備 ・ふくろう公園インクルーシブ DAY の開催 ・あいサポート研修の実施 ・インクルーシブ社会の実現に向けた諸活動 		
活動概要	<p>(実施日・場所)</p> <p>令和5年5月28日(日)</p> <p>岩国市 愛宕山ふくろう公園 10時～15時</p> <p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子供 189名 その家族 452名 計 641名の参加 ・見守り・サポートボランティア <p>約 200名 (海上自衛隊、米海兵隊、岩国医療センター看護学生、県立総合支援学校教職員、岩国ユネスコ協会・高校生、各障害児支援施設他)</p> <p>(内容)</p> <p>大型遊具エリア : ボランティアによるサポート</p> <p>ステージエリア : ヒーローショーや子供たちの歌や演奏、自衛隊による折り紙、看護学生による縁日コーナー</p> <p>スポーツエリア : 各障害者スポーツ普及団体によるボッチャ・フットサル・30M走の体験、ふわふわドーム</p> <p>展示エリア : 消防車、パトカー、白バイ、自衛隊車両の展示、及びはしご車の体験搭乗、米軍自走ロボット</p> <p>キッチンカーエリア : 6台のキッチンカー</p>		



なんでも 30m走で



ヒーローハクジャオーと



看護学生(サポートスタッフ)と障がいのある子ども



普段は遠慮して遊べない遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち

◆実施に伴う効果

参加者からのアンケート (抜粋)

- ・休日はいつも何をして過ごそうかと悩んでいますが、今日は普段行けない公園で心置きなく親子で遊べました。
- ・サポートボランティアがつきっきりでサポートしてくれたので、同じ障害のある子を持つ方と話すこともできフレッシュしました。
- ・スタッフやボランティアの人が障がいを理解しているので、周りの目を気にせず、純粋に子どもが遊ぶ様子を見られました。
- ・大きなローラー滑り台を障がいのある子が滑るなんて、この機会でないといけません。
- ・スタッフやボランティアの対応で、一人きりである子や泣いている子がいませんでした。
- ・普段、こんなに長時間公園にいる事はありませんでした。
- ・遊びの中で、我が子の成長を見ることができ、親として嬉しかったです。
- ・障がいのある子の為に公園を貸し切って開放していただけるのは、とても凄い事です。広島でもこの光景を見たいです。
- ・自衛隊の人が、バギーを持ってステージに上げてくれて良かったです。
- ・米兵との腕相撲は、両手でも負けました。国際交流ができて良かったです。
- ・普段我慢している遊具を普通に使える、皆の当たり前を一日でも体験できたことが幸せでした。
- ・私たち自身も周りのことも考えられる人で有り続けたいと思います。
- ・この公園で見られる光景が日常となるよう、今後もよろしくお願いします。

◆苦労した点

- ・ふくろう公園インクルーシブDAYも4回目となり、スタッフやボランティアの人も、趣旨を十分に理解してくれているので、障がいのある子どもや家族が何を望んでいるのか、真剣に考え対応してくれたので概ね順調に開催することができ、特に苦労した点は有りませんでした。

◆今後の課題・発展の方向性






- ・いつの日か、本当の意味での「インクルーシブ DAY」にしたいのですが、最近整備された札幌や宇部のインクルーシブ公園のように、インクルーシブ公園と言っても遊んでいる子はほとんど健常児で有り、まだまだ、障がいのある子となんか一緒に遊ぶことには、親を含めて相互の理解が得られていない事を痛感している。
- ・10月の「第5回ふくろう公園インクルーシブDAY」では、これまでの看護学生・高校生に加えて、新たに見守りスタッフとして中学生の参加を予定しており、徐々にではあるがインクルーシブの理念を低年齢層に広げる予定です。
- ・見た目障がいがあると分からない子の為に「障がいがありますマーク」の作成を予定している。




◆活動を終えての感想・意見等

- ・回を重ねるごとに、障がいのある子どもたちの公園遊びが上手になっていくのが分かるので、これからもこのイベントで公園遊びの練習をもらい、障がいのない子やその親にも様々な機会を通じて障がいに対する理解を深め、一日でも早く「インクルーシブ社会」が実現するように、私たち「遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会」も活動を続けて行かなければならないという決意を改めて確認しました。

活動名	No.22	団体名	ひかりエコメイト
島田川流域と海を結ぶSDGSアクションパートII		活動拠点	山口県光市
		代表者	藪 博昭
		支援金額	30万円

団体紹介	
結成時期	2003年4月
構成メンバー	11名 (60代 3名 70代以上 8名、女性 4名 男性 7名)
結成の目的	2001年度 光市主催「エコリーダ養成講座」受講修了者のうち 環境関連ボランティア活動に興味と関心を持つ有志が集まり結成。その後 退会者や会の活動に賛同する市民が加わり 現在に至る。
活動方針	自然環境の保護、再生及び環境関連の事業を行い、その活動の場を通じて地域社会への貢献と子供の健全育成を図ることを目的とする。 島田川流域の森・川・里・海を結び流域づくりの推進事業を行う

活動概要	
1：6月3日 光市室積海岸 世界環境デーイベントに出展参加。 市民参加 約200名	
2：海・川のプラスチックごみ削減環境学習会の開催	
1) 7月13日 岩国市立米川小 3・4年 30名 (校内で講話・プラごみ調査)	
8月30日 光市立光井小 6年 55名 (校内で講話・プラごみ調査)	
9月26日 岩国市立高森小 4年 60名 (校内で講話・プラごみ調査)	
10月17日 光市立浅江小 4年 130名 (校内で講話)	
11月6日 光市立浅江小 4年 130名 (虹ヶ浜海岸でプラごみ調査)	
11月9日 光市立室積小 4年 50名 (講話・室積海岸でプラごみ調査)	
11月28日 周南市立三丘小 3・4年 15名 (校内で講話・プラごみ調査)	
2) 学習成果を 各学校では工夫をして全校の児童や家族にプラスチックごみ削減の大切さを伝えました。(事例を下記します)	
○浅江小・・・紙芝居、PPT、クイズなどを児童が制作にして参観日に発表しました。	
○高森小・・・壁新聞を作り全校生に啓発しました。	
○光井小・三丘小・・・感想文やこれからの取り組み抱負を文集にしました。	
○室積小・・・山口テレビ朝日の取材を受け、放映されました。	
 紙芝居・PPT・クイズ	 壁新聞
 おいitとうございました	 TV放映

3：海・川で自然とふれあう (観察・清掃)	
1) 6月16日 光市立浅江小 3年 110名 コミュニティスクール支援 虹ヶ浜探検 (校内で概要説明・海岸で生き物観察=カブトガニ発見)	
	
	
タコ・ウニ・カブトガニなど捕獲、大興奮、観察後は放流した。	

2) 7月6日 光市立浅江小学校2年 120名 コミュニティスクール支援
島田川河口 「島田川探検」 (生き物観察)

3) 10月15日 「島田川の河口の自然を楽しもう」 市民親子30組
島田川河口・・・清掃活動と干潟の生き物に触れる
河口には 徐効性肥料カプセルが多量に集積、清掃後 環境学習をした。



4:3月 ①クズの撤去作業 3月16日 虹ヶ浜海岸 60名参加 (自治会・企業等)
貴重な海浜植物の生育を阻害する繁茂するクズの撤去と生物多様性国家
戦略 (環境省 生態系被害外来種の駆除) に沿ってシナダレスズメガ
ヤ・アレチノギク・ヒメムカシヨモギも同時に刈取る予定です。
②講演会 3月19日 光市地域づくり支援センター 40名参加
演題:「海岸の自然を診る・活かす」 講師: 広島工業大 岡先生・学生

◆実施に伴う効果

1. 地域の老人会、コミュニティ協議会、自治会などと連携して 子どもたちの育成に貢献できたと思っています。
2. 環境学習成果を子供たちは紙芝居やクイズにして参観日に保護者に伝えました。
3. 感想文や学習体験を家庭で話し合う機会ができたプラごみ削減に寄与したと思います。
4. 学校では 学習内容を「学校だより」などにして 発行していますので 全校で関心を持っていただきました。
5. イベントは 今年も地域情報紙やTV放映されましたので 地域への啓発に役立ったと思います。

◆苦労した点

1. 出前授業希望校の増加とインフルエンザで休校となった学校があり 環境学習会は学校とのスケジュール調整に苦労しました。
2. 海から遠い中流・上流域のマイクロプラスチック採取体験学習は 海岸の砂を持参しましたが、採取した個所はプラごみが比較的多く堆積しているところを選びましたので、児童には プラごみが海岸一面に漂着している印象を与えたかもしれません。(感想文より類推)
3. 海底に堆積したごみの回収は 底引き網漁が解禁となる冬季しかできないことが分かりました。現在まとめ中ですが、漁業協同組合との連携を図りたいと考えています。

◆今後の課題・発展の方向性

1. 海岸の管理と2級河川の管理は県ですが、ごみを回収する市との連携を更に深めなければなりません。
2. 中流・上流域校の児童を対象に 親子環境学習会を 海岸で開催して プラごみや生き物観察の現地体験をしてもらい 教室学習と現地学習の溝を埋めたいと考えています。
3. 地元と連携した活動とメディアへのアプローチを継続します。
4. 「学校だより」の掲載は効果があると期待をしています。
5. 生物多様性国家戦略 (30by30) に沿って海浜植物の多様性保護活動を地元自治会や企業と連携して持続します。高校にPRして生物関連部活に取り入れてもらう努力をいたします。

◆活動を終えての感想・意見等

1. マツダ財団様の助成のお陰で多数校に啓発や体験学習ができました。ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

活動名	No.23	団体名	山口トップランナープロジェクト (YTP)
山口市在住の高校生を対象とした地域課題を 解決するための実践プロジェクト	活動拠点	活動拠点	山口市
	代表者	代表者	柿沼 瑞穂
	支援金額	支援金額	45万円

団体紹介

結成時期: 西暦 2022年4月 (前身は「やまぐちトップランナープロジェクト」)

結成の目的: 地域の課題を自分たちのこととして捉え、気づき、行動できる次世代の人材を「トップランナー」と定義し、発掘・育成を行う

活動方針: プロジェクト実施を通じて、高校生が「自分にも何かができる」「社会の一員として役割を担える」といった達成感を得て、より広い視野を持つ次世代のリーダーを育成する。

構成メンバー: 代表 柿沼瑞穂 (認定ファウンデーター)、小田亜貴 (やまぐち市民活動支援センター)、児玉頼幸 (認定 NPO 法人山口せわやきネットワーク 代表)、田中新治 (山口市役所)



令和5年度山口トップランナープロジェクト活動報告

公益財団法人マツダ財団助成事業

第3期生

9名3チーム

実施期間

令和5年7月～2月

第3期
山口トップランナープロジェクト活動報告

この事業は、「山口トップランナープロジェクト」による、山口市の次世代を担うリーダー育成事業です。地域の地域課題に対し、高校生が山口への社会貢献を念頭に、取り組むべきテーマを設定し、新たな価値の提案や、課題解決に向けたプロジェクトを企画・実践しましたのでご報告いたします。

第1フェーズ
発見する

山口ってどんなまち？
山口の魅力や課題を、大人との対話を通して発見するワークショップを実施。

第2フェーズ
実践する

湯田温泉地区に若者を呼び込み活性化させるための企画を提案。

第3フェーズ
発信する

山口県内の高校生が一堂に会し開催される探究活動の報告会「やまぐち探究サミット」への参加。

講師

メンター

社会人・学生メンターが高校生の探求を伴走支援



株式会社丸久(人事能力開発部指導)
黒川 康生 氏



高田 隼平さん
(県庁職員)



山崎 慎太郎さん
(学芸大学4年)



葛巻 弦喜さん
(地域おこし協力隊)



後藤 利奈さん
(山口大学3年)



吉岡 舞桜さん
(県立大学1年)



内田 朱香さん
(県立大学1年)

PBLプログラム

湯田温泉地区の賑わい創出をテーマに、2024年完成予定の湯田温泉パークの利活用について、新たな価値の提案を念頭に課題解決に向けたプロジェクトを企画しました。

7月 フィールドワーク

建設中の湯田温泉パーク周辺を散策。観光スポットから路地裏の街並まで、フィールドワークを通して、利便性や交通量、まちの特徴を調査。



8月 問題認識・課題設定

若者を呼び込むために湯田温泉パークが高校生にとってどんな場であるべきかを考え、高校生の抱える問題とは何かを掘り下げていきました。

夏休み特別講座

若くして起業し、第一線で活躍する人気講師から、将来にわたって活かせる「伝える」スキルを学びました。



大草快貴さん
ピクス株式会社代表取締役

① プレゼン講座

ストーリーとデザインに特化した、人の心を動かす伝え方の基本

② 情報発信講座

「映え」だけじゃ得られない、共感につながる情報発信の極意松岡菜々美さん
アドストーリーズ代表



【高校生の抱える問題】（チーム毎）

- A：多忙で自身と向き合う時間がない
- B：知らないことが多く世界が狭い
- C：世代を超えた関りが少ない

9月 企画の検証・

プレゼン資料づくり

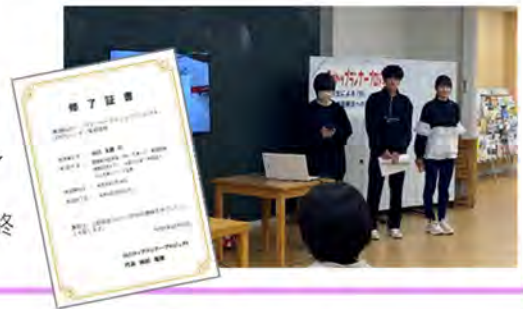
チームごとに、課題解決のアイデア出し、その効果についてまとめ、プレゼン用と配布用の2種類の資料を作成。



10月 成果報告会・終了証授与

各チーム、以下のタイトルで発表

- A：いまを生きる人に～自分と未来に向き合う時間～
 - B：たまりば～自分の世界を広げる、若者たちのサードプレイス～
 - C：“楽しい”を創り出す～湯田温泉を関りで溢れるまちに～
- 講師より総評をいただき、ふりかえりをした後、高校生全員に終了証が手渡されました。



2月 「やまぐち探究サミット」出場

代表でAチームが、県内の高校生が集まる探究活動報告会へ出場し、“ピッチ”とよばれる手法で発表しました。

時間に追われ自分と未来に向き合うことができていない高校生の実情を問題提起。「未来とは、今の経験を基に展開される」という考えのもとに、若者向けの新しいスタイルの講演会「カンファレンス」を提案。プロダクトとして実施したカンファレンスに自身の感想を加え、その効果について発表を行いました。



左から、久保直香さん/京野あざみさん/阿部遥希さん

- ◆実施に伴う効果：参加する高校生、メンターと共にプレゼンテーションやコミュニケーション能力が向上した。
- ◆今後は地域のキーパーソンや活動団体との出会いの場を作り、高校生がより気づきを促すマッチングを行い、地域課題を解決する小規模プロジェクトへの取り組みに重点をおいて指導する。
- ◆最後に：高校生が学校でやられるのではなく、地域で自発的かつ主体的に取り組むプロジェクトが実施できたことは、ひとえにマツダ財団のご支援のおかげです。また、ご尽力いただいたすべての皆様に感謝いたします。

活動名	No.24	団体名	一般社団法人 Happy Education
体験は学びの DIY & 孤立解消・繋がる支援		代表者	村上 忍
		支援金額	40 万円
団体紹介	<p>我が子が小学一年生で、「学校辞めたい、僕死にたい、学校に行けなくてごめんなさい。」と不登校になったことをきっかけに、2018 年 1 月に、同じように、学校が辛くて苦しんでいる子どもを持つ保護者に呼びかけ、当事者が中心となり活動を始めました。</p> <p>学校が辛いだけで、子ども親も居場所がなくなり、社会から孤立し罪悪感に悩まされ、生きる希望さえ失ってしまう。教育機会確保法の設立や見直し等、徐々に不登校に対する理解やサポートは広がってはきていますが、地方においてはまだまだ孤立し苦しむ子どもたちが取り残されています。</p> <p>当事者が主体となり、本当に必要な支援、様々な子どもたちが安心して過ごせ、それぞれに合った環境・方法で自分らしく学び、生きる力を育んでいける環境を地域資源を活かして作っていくことを方針としています。</p>		
活動概要	<p>・体験は学びの DIY</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春(5月)と秋(10月)は、拠点地域にて自然観察会・タケノコ掘り、空き家となり放置されている栗やキウイ、柿の収穫を行った。(参加人数のべ 45 人)収穫した食材を子どもたちと調理し、子どもたちが主体の地域食堂として、地域の飲食店(田舎の保健室)さん等のご協力を得て、子どもたちの出来る事、得意な事を活かし、地域の方々へ振る舞った。(のべ参加人数：地域食堂の利用者のべ 70 人) ・夏(8月2日)は、ライフセーバーさんが常駐するプライベートビーチにて、マリンスポーツ体験及び海岸清掃を実施した。(参加人数 26 名) <p>・孤立解消・つながる支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八月に、福岡県にある「私立立花高校」の齋藤真人校長先生を山口市菜香亭にお招きし、不登校体験者・不登校の子どもを持つ保護者・教育関係者対象に、講演会を行った。開催において、不登校経験者(高校生・社会人)さんがボランティアとしてお手伝いに協力して頂いた。 ・県内にて、不登校の子どもを持つ保護者対象の茶話会を、山口市 2 回・防府市 2 回・阿武町 3 回・光市 1 回にて実施した。 		



佐波川での自然観察会



空き家の栗の木で栗拾い



8/20 齋藤真人校長講演会



阿武町にて茶話会

◆実施に伴う効果

体験は学びのDIY

- ・不登校の子ども達が参加しやすい環境で、自然の中で体験活動を行う機会を提供することで、日頃室内に引きこもりがちな子どもたちが、積極的に参加でき、笑顔になった。
- ・地域食堂として活動を発展させたことで、地域の方々と不登校の子ども達を繋ぐことができ、子ども達がおもてなし側にまわることで、自己肯定感の向上に繋がり、それぞれの自信につながった。

孤立解消・つながる支援

- ・同じ悩みや不安を持つ当事者がつながりやすい場を設けることで、それぞれの孤立を解消できた。また、行政との連携にもつながり、各市町の教育委員会と情報交換できるきっかけになった。
- ・講演会に参加してくれた子どもが、高校進学に意欲をもったと報告を受けた。

◆苦労した点

- ・体験活動においては、天候に左右されることや、今年はタケノコも栗も不作で、収穫時期がよめず、苦労したが、実施期間を長くとることで、対応した。
- ・不登校の子どもを持つ家庭は、すでに孤立傾向にあり、外からの情報を得にくい環境にあるので、対象者に情報を届けるのがむずかしいが、これまで関わってくれた方々にご協力頂き、横の繋がりを活用して情報発信を行ってカバーした。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・不登校の子ども達は、増加の一途にあるが、正しい理解や子どもたちの受け皿・保護者の相談先などが不足している。引き続き、保護者の相談や社会啓発も含めた継続的な活動が求められている。
- ・また、日々変化している情報を遅れなく学び、地域格差による当事者の困り感軽減に力を入れていきたい。
- ・当団体の活動のみならず、地域社会全体が様々な子どもたちの多様な学び環境になりえるように、共通理解や大人の知識の底上げに力を入れていきたい。
- ・少子高齢化・過疎化の進む中山間地域を、新しい学び環境として資源を活かした活動で盛り上げていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・今年度は、昨年度に増して、一般社会の不登校への関心が高まり、興味を持って下さる方々が増えたように感じた。が、まだまだ様々な子どもたちが必要をしている環境や認識は足りていない。
- ・大人が学び、価値観や考え方をアップデートしていく必要性を痛感している。

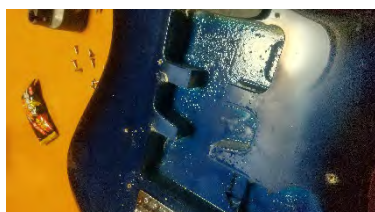
活動名	No.25	団体名	美祢市軽音楽部
美祢市軽音楽部		活動拠点	美祢市
		代表者	白井 雄生
		支援金額	44万円
団体紹介	<p>前身団体として2015年ころから市内で弾き語りの交流会、地域イベントでの出演等をしていましたがコロナの流行で一時休止になってしまいました。コロナでいろいろ自粛になるなか2022年夏、美祢市伊佐地区の公民館、学校から相談があり、バンド未経験の生徒のバンド支援をさせていただきました。</p> <p>それから、他の学校の生徒からも相談があり、過疎地での子どもたちの挑戦を応援することを主たる目的として活動しています。技術的な指導、イベントづくり、PAとしてのサポートそれぞれをしています。</p> <p>構成メンバーは美祢市で音楽活動をしている大人を中心に高校生も協力してくれています。</p> <p>活動方針は、子どものチャレンジを支援することで、今後の育ちのエネルギーにしてもらうことです。</p>		
活動概要	<p>【活動日】水曜日の放課後、土曜日の午後</p> <p>【場所】美祢市ボランティアコーナー（市の庁舎建て替えの為当初から変更してます）</p> <p>【内容】楽器演奏支援</p> <p>【参加者】のべ400名（各回4名から10名程度でばらつきあり）</p> <p>【その他】イベントのサポート（ゆめサポフェス、福祉の市メモリアイベント、美祢市生涯学習発表会）</p> <p>作曲支援</p>		



ゆめサポフェス（前日リハーサルと本番のステージ）



お手伝いもしてくれる高校生 SSW



機材の修理も簡単にできるものはスタッフが対応

◆実施に伴う効果

音楽を通して新しい人間関係が生まれました。子どもの数の少ない地域としては、大きな成果の一つと感じています。練習に対する温度差ではたから見たら少し心配な場面もありましたが、子ども同士で話し合うこともできたので良い経験になったのではないかと思います。

演奏が好きで始めた子どもが今度はイベントの裏方に興味を持つなど、経験をする中で自分のやってみたいことをまとめ、次のステップを設定することができました。

市教育委員会と継続的に関わることで、市の行事へ子どもたちが出演する話をいくつかいただくこともでき、活動の幅の広がりを感じることができました。

地域の音楽をしている大人とも接点が増え、子どもたちも「田舎なのにこんなに音楽をする人がいるんだ」と驚いていました。仲間を増やしつつ、過疎の町、少子化の先進の町として、楽しい体験を提供つづけたいと思います。

◆苦労した点

令和5年6月30日からの大雨災害で本市は被災し災害ボランティアセンターが立ち上がり夏の間私たちボランティアスタッフが練習の支援や体験会等を実施できませんでした。

練習会場までの交通手段で悩んでいる子の課題もありました。送迎対応は今後の継続が確保できないこともあり対応してあげることができなかつたです。

作曲に取り組む子どももいたが、フルコーラスで作るまではできなかつたのが少し残念でした。ただワンフレーズ・ワンフレーズを作ることはできていました。曲にして、バンドで演奏することまで継続的に応援したいです。

◆今後の課題・発展の方向性

バンドの支援と軽音楽の入り口の支援をするにあたって会場が限られている現状は課題です。会場として使える場所の確保を市教育委員会と進めていくことが必須となってきます。また、その場合の使用料や子どものみでも練習をするようになった時の責任の所在であったりと課題はまだありますが、主に軽音楽というものに触れてもらうという段階の支援と発表会の準備を2本柱としていくことで、新たなボランティアスタッフの確保ができていくと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

1年活動をしてみて、新しく参加するようになった子どもが増えたこと、またマツダ財団様による助成のおかげで今後活動するための一定の機材をそろえることができました。子どもたちには無償で貸し出したりすることで、敷居をさげて、「やってみたい」を応援していくことができました。併せて、物を大切にすることも伝えていくことができたかと思えます。

上にも書きましたが、活動を通して大人も子どもも仲間が増えてきました。ある程度自由に楽しみながら、マナーであったり地域の人に応援し続けてもらえるような活動をしていこう。ということ子どもたちと共有しています。今後も子ども達の居場所として継続していき、今の中学生バンドの子たちが高校生や大人になって美祢での楽しい思い出を胸に各地で活躍してくれたらいいなと思いますし、都会で大変なことがあったときでも帰ってくる場所としてこの活動を続けていこうと思います。

活動名	No.26	団体名	地域総合型スポーツクラブ防府
中学校地域部活動に伴うバドミントン教室		活動拠点	防府市
		代表者	坪郷 好夫
		支援金額	28万円

団体紹介

2018年総合型地域スポーツクラブ（文部科学省推進事業）の一環として幼児～児童に対しては運動の楽しさを、またスポーツ庁推奨のACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）を取り入れて運動動作の習得を目指し元教員及び元トップアスリートからスポーツの楽しさを家族で経験・学び運動習慣をつけることを目的としております。防府市・山口市を拠点とし、さまざまな競技（現在9種目）の活動を日替わりで経験し楽しんでいます。なお、活動種目には、各競技経験者が指導者となり活動。種目については参加している児童・生徒の要望において開始した競技となっています。毎年1回家族みんなで様々なスポーツを経験するファミリースポーツフェスタを、山口県央地域にてアーチェリー・ダーツなどの体験イベントも開催しております。

活動概要

自主性を重んじる当クラブにおいて、中学部活動が、学校から地域へ移行していく事が文部科学省より発表される中で、子供達の要望でバドミントン競技について中学年代より頑張っって挑戦していきたいとの声からバドミントン部活動は、（公財）日本中学校体育連盟の活動時間及び活動日数の規定に伴い 週3～4日1活動2時間以内、土日活動3時間以内土日どちらか休日を設ける。の中で活動を行っております。出来るだけ学校施設をお借りし活動を行ってはいますが、会場使用について苦慮しております。

バドミントン競技を通じ関わる人々に感謝を、共に活動する仲間には、リスペクトを指導者には尊敬を自身は、日々全力で向き合い成長していく事を念頭に現在20名強の参加があります。



認定証頂いて 実感 感謝！！



暑い中・・・さらにカーテン閉めて・・・蒸し風呂！体調---管理・・・万全?!



初めての経験！！夢に見た県大会出場…。緊張。。MAX 惨敗



みんなで奉仕作業その後仲間とパーベキュー 最高！！

◆実施に伴う効果

小学生から中学生へ成長していく中で子供達自身がやりたいことが出来ることへの喜びから何事も前向きに考え挑戦する事の大切さを実感できていると思われる。

また、自身が決めた事で取り組む姿勢が傍で見ている楽しそうに見える。

2024年度より他競技において、同様に活動開始する事に繋がりました。

◆苦労した点

当クラブの取り組みが家族で、さまざまなスポーツを楽しむこと、子供達が経験したいスポーツを楽しもうが主流な中で活動の周知と活動に必要な財源の確保と定期的な活動場所固定化⇒について行政への支援協力の要請共働きが多い現状において活動参加を断念する事がないように⇒マイクロバスの運用（迎えのみ）を提案同年10月より運用開始。

◆今後の課題・発展の方向性

定期活動場所の確保に伴う会場使用料の軽減及び指導者育成等財源確保のため行政支援の依頼様々なコンテンツを利用して活動周知を積極的に行うこと。

現在求められている他競技の活動開始を推進していく事で活動発展が見込まれる。

様々な事情がある中で出来るだけ沢山の生徒にむけ活動参加しやすい団体活動に成長発展できるように問題点を出来るだけ早急に対応できるようスタッフの充実を図る。

◆活動を終えての感想・意見等

中学部活動の地域移行に伴い不安な生徒と家庭と学校でさまざまな問題が生じる中で持続可能な仕組み作りにおいてまだまだ時間がかかりそうですが、この年代の子供達にとっては、大人への成長段階に最も大切な時間だと改めて感じ今後更に大人の力が必要になると思われます。マツダ財団の支援の元まず1段階のスタートが出来たことを感謝し、更なる支援を賜りながら自主運営できるよう精進していきます。

NO.27

MAMAFESTA

団体紹介

こころを紡ぐ子育て応援隊

孤立した状態の『孤育て』になるのではなく
地域全体で親子が楽しめる環境をつくり
地域で子どもだけではなく
親も一緒に育つことが
できる『子育て』になり
親子が共に成長できる
『共育』となるように
活動中

活動概要

MAMAFESTA：偶数月第3日曜日（家族の日）

4月15・16日、6月11日、
8月6日、10月14・15日、12月17日

puchiMAMAFESTA：平日3日間

11月13・14・16日

12月18・19・20日

3月4、5、6日

ばとんたっち：毎月火曜日（イオン防府）

実施に伴う効果

○MAMAFESTAを施設内で行うことで、買い物のついでにふらっと立ち寄れる場所であるため、初めて来られる方が多くまはあとの活動を知ってもらうことができた。

○MAMAFESTA内では、ちびっこ大会とばとんたっちを行い、ばとんたっちでは、使わなくなった子ども服や子ども用品、マタニティ用品の交換会で、産前に利用した方が産後また利用していただけた。また、物価高の現在にはとても喜んでいただけるイベントとなった。

苦労した点

○子連れでの活動なので、準備や片付けの時間がかかり、子どもたちに我慢をさせてしまった。

○子どもの体調にも左右されるのでメンバー内でも負担があった。

今後の課題

○高校生や地域の方にボランティアの声掛けを余裕もって行う。

○今年度の参加者の意見を参考にし、企画や平日のイベントの開催を行い、子育て家族が楽しめ、ホッとすることのできる活動をしていきたい。

団体名 : 子育て応援隊 ままはあと
活動拠点 : 防府市 支援金額 : 16万円
隊長 : 古村 美希



ハンドメイド出展者は子育て中の作家さんを中心に出品してもらい、作家さん同士の交流の場ともなった。
また、初出店の場として活用して頂き今後の活躍に期待している。



子ども服・おもちゃ・マタニティ用品などを持ってきてもらいチケットと交換して欲しいものと交換する。
マタニティの方は80cmまでの服か子ども用品を10個無料で持ち帰り可能としている。



ちびっこ大会ちびっこ大会では、ハイハイ・よちよち・ちびっこレースを開催し今しか見られない光景に参加者の喜んでいる顔を見ることが出来た。



活動を終えて

MAMAFESTA ではコロナ禍も落ち着きたくさんの家族に参加してもらえまはあとの活動を周知してもらえたが、初めましての方もまだまだおられたので、来年度は広告等にも力を入れ周知してもらえるようにしたい。
また、地域の方にも手伝ってもらえるよう声掛けをし、地域の方も子育て家族もホッとすることのできる場所の提供ができるように活動していく。

活動名	No.28	団体名	島の寺子屋
世代を超えた交流を目指したイベント		活動拠点	廿日市市宮島町
		代表者	日高 優子
		支援金額	38万円
団体紹介	<p>2021年4月に宮島のママさんたちで結成しました。</p> <p>宮島ではなかなか子育てイベントがなく、子育ても孤立化してしまいます。また世代を超えた交流が行われるようなイベントが少なく、宮島のママさんたちで立ち上げました。行政のイベントもありますが、イベントの内容にも、回数にも限りがあるので自分たちでイベントが開き活動しています。</p>		
活動概要	<p>【リトミック教室】</p> <p>年2回（24回）etto 宮島市民交流館にて 毎回3組～5組の親子が集まって、先生に来てもらってリズムに合わせて、親子で楽しんでいます。工作も用意してくださって素敵な作品が出来上がっています。</p> <p>【手形アート】</p> <p>2023年4月22日 宮島口商店街にて 山口から手形の先生をお呼びして、簡単にできる手形アートイベントを開催しました。観光客の方も多く通る JR 宮島口すぐで、親子が参加してくれました。</p> <p>今後のイベントのチラシを配布して他の活動の告知もしました</p> <p>【宮島コンサート】</p> <p>6月と9月 etto 宮島市民交流館にて 年2回ホールで誰でも来られる、子どもが騒いでも大丈夫なコンサートを開催しました。宮島で楽しめるコンサートがほとんどないので様々な世代の方が集まって、大変喜んでくれました。親子連れも多く、子育て中でも音楽を楽しめて喜んでもらえました。</p>		



味噌作り！様々な世代が参加。捏ねるのが大変なシニアのものは子供達がコネコネして、おいしいお味噌ができました



2組のコンサートを開催。子連れがダメなコンサートが多いけれど、子連れ大歓迎だったので、島の外からやシニアの方も来て大盛況



クップとモルックというインドア・アウトドア遊具を購入し、定期的に遊びました。まだまだ人数は少ないですが、楽しく遊んで交流しています

毎月2回のリトミックを行い、島の中の親子さん・島の外の親子さんが集まっています。たくさん交流が生まれています

◆実施に伴う効果

島の外からもたくさんの親子が参加してくれ、イベント外でも交流がありました。同じ島内でも、様々な年齢の方がイベントに参加してくれました。普段なら交流することがなかった方とお話することができ、道で会った時も挨拶をしてお話できるようになりました。宮島で初開催となったイベントもあり、子どもたちも大喜びでした。一度参加した方が、「本当によかったから」といって、近所の人を誘ってきてくれたりもしました。本当にたくさんの交流が生まれました。

◆苦労した点

集客と、場所の調整は苦労しました。宮島の広報に入れてもらえないか依頼したところ、特定の団体は難しいと言われていたり、お金をとるイベントは難しいと言われていたり、かなりの制約がありダメでした。町内の掲示板やお店に張り紙をお願いしたり、メンバーで手分けして配ったりしました。場所は宮島市民センターは人気なので、予約をとるのに苦労しました。なかなか希望の日に部屋が取れずに先生にきてもらう日を調整してもらったり、参加常連メンバーにも日程を調整してもらったりしました。それでもなかなかイベントを認知してもらうのは難しく、後から「行きたかった」と言われました。

◆今後の課題・発展の方向性

集客は新聞の折り込みや SNS の有料広告も視野に入れながら、行っていきたいと思います。商店街や町内との交流が生まれたので、告知を協力してもらえそうです。コンサートは年に2回は難しいかもしれませんが、毎年1回は開催し、世代を超えた交流イベントとします。イベント参加料より費用がかかっていることが多いのですが、できるだけ費用をかけなくてもできるイベントを続けたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

親子のイベントも定着してきて、終わった後も部屋の使用時間ギリギリまで遊んだり、ママ同士が話して交流ができました。コンサートは0歳から90歳の方が聴きにきてくれ、「よかったね」とか「かわいいね、何歳？」とか様々な会話が生まれました。イベントを主催するのはメンバー全員、初めてで大変でしたが喜んでもらったことでまた、頑張ろうという気持ちになりました。これからも継続していこうと思います。

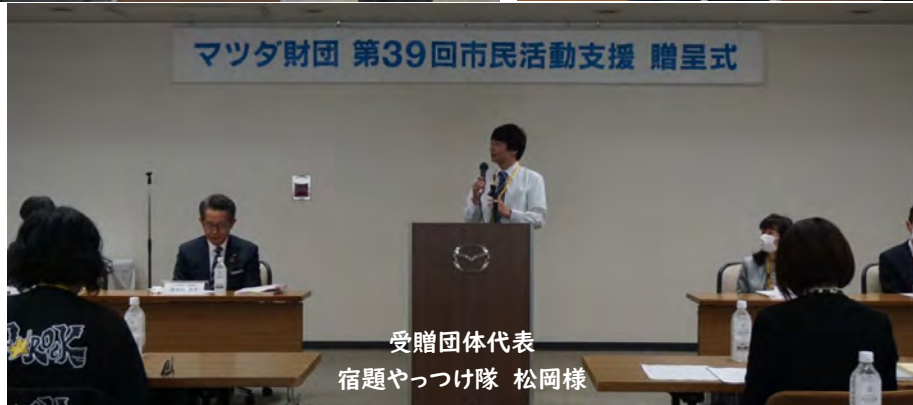
2. 贈呈式

市民活動支援の贈呈式は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い、4年ぶりに広島県と山口県の2会場において、対面で開催しました（コロナ禍で2020年度は中止、2021年度、2022年度はオンラインで開催）。

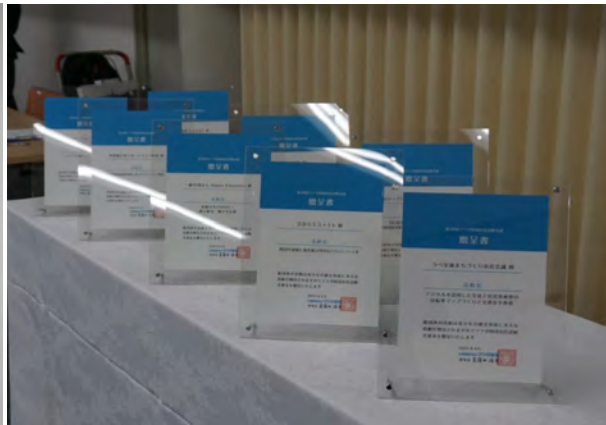
贈呈式の後の交流会では各団体の活動を紹介していただきました。

第39回（2023年度）マツダ財団市民活動支援贈呈式式次第

広島県	山口県
<p>日時：2023年4月12日(水)13:30～16:00 場所：マツダ(株)広島本社2号館2階201会議室 出席者：40名（受贈20団体、広島県、広島市、マツダ(株)、マツダ財団関係者）</p> <p>13:30-14:20 贈呈式</p> <p>(1) 開会 (2) 出席者紹介 (3) マツダ財団挨拶 理事長 菖蒲田 清孝 (4) 来賓ご挨拶 広島県環境県民局長 新宅 郁子 様 (5) 来賓ご挨拶 広島市教育委員会青少年育成部 部長 橋本 英士 様 (6) 贈呈書贈呈 (7) 代表団体ご挨拶 宿題やつつけ隊 松岡 和貴 様 (8) 閉会 (9) 記念撮影</p> <hr/> <p>14:30-16:00 交流会</p> <p>(1) マツダの地域貢献について マツダ(株)コーポレート業務本部総務部 (2) 各団体の活動紹介（3分/団体） (3) 事務連絡</p> <p>16:00 終了</p>	<p>日時：2023年4月19日(水)13:30～16:00 場所：マツダ(株)防府工場西浦地区 講堂 出席者：24名（受贈8団体、山口県、マツダ(株)、マツダ財団関係者）</p> <p>13:30-14:20 贈呈式</p> <p>(1) 開会 (2) 出席者紹介 (3) マツダ財団挨拶 常務理事・事務局長 井上 紀文 (4) 来賓ご挨拶 山口県健康福祉部子ども・子育て応援局 局長 森光 淳子 様 (5) 贈呈書贈呈（8団体） (6) 代表団体ご挨拶 山口トッパンナープロジェクト 会長 柿沼 瑞穂 様 (7) 閉会 (8) 記念撮影</p> <hr/> <p>14:30-15:30 交流会</p> <p>(1) 防府工場概要 防府工場総務部 部長 田中 真二 (2) 各団体の活動紹介（3分/団体） (3) 事務連絡</p> <p>15:30 終了</p>



第39回 (2023年度) マツダ財団市民活動支援贈呈式 於マツダ(株)防府工場 2023.4.19



3. オンライン交流会（2023/7月～8月）

オンライン交流会は、コロナで動けなくなった2020年に、各団体の皆さまの活動を見学することができなくなったため、いくつかのグループに分けて開始したものです。2023年度はコロナも落ち着き第5類感染症に移行されましたが、団体同士ざっばらんにお話でき、運営の参考意見も聞くことができるため、是非継続をとのお声をいただき、また、財団メンバーも多様な考え方に触れ気づきや学びを沢山いただくことができることから継続開催することとしました。今年度は、コロナ禍の影響で延期された1団体を含んだ29団体を対象に5回に分けて開催しました。残念なことに、山口県において発生した6月30日からの大雨災害の影響を受け参加できなかった団体もおられ最終的に21団体29名の皆様にご参加いただきました。



4. オンラインサロン（2023/12月）

コロナ禍で急速に普及したオンラインシステムを活用し、2021年度よりマツダ財団サロンを開催しています。

このサロンは、今まで支援した団体、あるいは研究者の中から、テーマに応じて関係者を募り、意見交換する場で、似た活動あるいは同じ目的を持った団体と研究者を繋ぎ、より深くそのテーマについて議論することで、お互いに気づき生まれ、より良い活動に進化するためのお手伝いをしたいと思って開催しています。

オンライン交流会が、現在支援している団体を結ぶ横の繋がりであるのに対し、このサロンは、過去に支援した団体や研究者を結ぶ縦の繋がりにしたいと考えています。

今年度は1回開催しました（テーマ：「地域おこし協力隊」について）。

板垣先生は、マツダ研究助成を2021年度に受けられ、実務経験や専門知識の少ない若者でも限られた活動期間のなかで、隊員が地域で活躍できるための活動方法論を研究しておられ、長岡市と長岡造形大学大学院の連携事業である地域おこし協力隊制度を活用したイノベーター育成プログラム(通称：いのプロ)について発表していただきました。地域おこし協力隊として活動すると同時に、大学院生として研究をする“半学半域型”制度をデザインされ、具体的にどのような活動をされているかご紹介いただきました。

勝瀬様は、大崎上島で地域おこし協力隊として活動しながら、一般社団法人 まなびのみなとでも活躍しておられ、大崎上島町の“大崎海星高校魅力化プロジェクト”について発表していただきました。地域おこし協力隊員として、統廃合の危機にあった学校の中に、町が運営する公営塾を作り、その運営スタッフの立場で活動している事例や、「生徒の“やりたい”を全力でサポートする企画」などの紹介がありました。

発表後は、活発な質疑応答がなされ、悩みや課題をもって取り組みをされている方にとっては、とても有用な情報共有になったのではないかと思います。このサロンをきっかけとし、2024年2月に大崎上島において板垣先生が地域おこし協力隊や広島県立大崎海星高校の教員や学生に対して、ワークショップを開催され、まさに研究と実践の融合を図ることに貢献できたのではないかと思います。

第9回「地域おこし協力隊」について

日時：2023年9月27日（水）

●研究発表：

長岡造形大学大学院准教授 板垣 順平 様
(2021年度研究助成採択)

●事例発表：

一般社団法人 まなびのみなと (2022-2023年度採択)
勝瀬 祐介 様



5. 支援団体News

支援している団体のイベント情報や掲載記事、それに財団員が見学に行った際の訪問記をマツダ財団のHPに掲載するとともに、2022年度より、月に1～2回程度、ニュースをとりまとめて、市民活動団体の皆さまを始め、研究者、大学関係者、行政関係者、中間支援団体、その他マツダ財団の青少年健全育成でお世話になっている方や希望者約700名に配信しています。発信直後に、ご覧になった方から、感想や情報をお寄せいただくケースが回を重ねるごとに増えてきています。今後も情報共有ツールとして掲載・発信していきたいと思っています。

【マツダ財団】支援団体News 31
 (マツダ財団の活動をご支援いただいている皆様にBCCでお送りしています。)

いつもお世話になります。
 寒くなってきましたがお変わりありませんか？
 今年最初の支援団体News31をお送りします。



(写真はひかりエコメイトの藪さんより新年早々お送りいただいたものです。
 「光市虹ヶ浜海岸で 出前授業用海洋プラスチックごみの資料作りをしていましたら、海中で『タツノオトシゴ』を発見しました。」とのことです。)

第40回市民活動支援募集を1/15に締め切りました。
 応募73件(前年度62件)とコロナ5類移行後の活動再開が顕著になってきました。
 さて、それでは、これからの活動案内です。
 1 マツダ財団では、今年度終了される研究者5名と市民活動28団体が集う

6. 成果報告会

新型コロナウイルスの発生から3年余りが経ち、新型コロナウイルスの感染法上の分類が5月に季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ、市民活動も活発化してきました。そうした中、青少年健全育成関係の研究者と市民活動団体合同による成果報告会を開催しました。

この報告会は、研究と実践の融合、広島県と山口県の市民活動団体の交流を目的として、研究助成と市民活動支援の終了者の皆さまにお集まりいただき開催しているものです。

当日は、研究者5名（全国）、市民活動団体25団体（広島県17団体、山口県8団体）の終了者の皆さま、選考委員の先生方の他にも、市民活動に興味をお持ちの一般の方にもご参加いただきました。

プログラムの一つ目は、毎年恒例の基調講演。選考委員の千葉大学名誉教授明石要一先生より、「少子化時代に対応した教育『地域を育てる教育』の推進」をテーマにお話しいただきました。若者が都会に流出する問題について地域を育てるための教育が必要とのことで、山村留学のススメや廃校となった学校の活用、教育の複合化のススメや、小中学校の総合学習の時間を使って「ふるさと納税」の地域固有の「返礼品」を考案するなど、事例を交えてお話くださり、持続する社会の在り方について考えました。話の内容は、参加者の取り組みと重なっているものも多くあり、皆さん、熱心に聴いておられました。

次に、今年度研究や活動を終了される皆さまの研究や活動内容の紹介とポスターセッションを3グループ（研究者1グループ、市民団体2グループ）に分けて行い研究者と市民団体の皆さままで交流を深めていただきました。最初に簡単な内容紹介を聴き、その後詳しく知りたい人のところで話を聴くスタイルで、いろいろな繋がりができると喜ばれています。

プログラム最後のパネルディスカッションでは、長岡造形大学長岡造形大学 准教授 板垣順平先生にファシリテーターを担っていただき、「青少年と地域のかかわりについて」をテーマに、小・中・高生を支援されている3名のパネリストの皆さまにディスカッションしていただきました。パネリストの皆さまから「各団体の活動概要と青少年のその活動へのかかわり」「青少年が地域で果たす役割について、期待と現実とのギャップ」「青少年との活動を考えている人たちへのメッセージ」について発表、意見交換していただいた他、会場の皆さまも参加型で進行され、スマホで意見や感想、質問を投稿いただいたり、その場でご発言いただいたりと、大変盛り上がりました。パネリストの皆さまは、大切にしていることとして、「目的はイベントの成功ではなく子ども達の成長」、「子ども達を導きすぎないこと」、「大人がもう少しupdateして今の子ども達のことを知ることも必要」等、青少年とかかわる上でのヒントを教えてくださいました。また、子ども達との活動自体を楽しみながら取り組んでおられる様子、子ども達の意見を尊重しそこからご自身も学びを得ておられるとのお話が印象的でした。

このたびの、4時間にわたって開催した成果報告会、参加者皆さまの当日の様子やアンケート結果から所期の目的である、研究と実践の融合、地域同士をつなぐ役割を果たせたのではないかと感じました。今年度終了の皆さま、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

2023年度「青少年健全育成関係 研究&市民活動 成果報告会」式次第

日時：2024年2月12日（月・祝）13:00-17:00

場所：広島市西区民文化センター 3階 大会議室 A,B,C

〒733-0013 広島市西区横川新町6番1号

参加者：今年度終了予定研究者5名&市民活動28団体、選考委員、マツダ財団
一般参加者 総勢66名

実施内容：

- ・基調講演（選考委員 千葉敬愛短期大学 名誉教授 明石要一 様）
「少子化時代に対応した教育—「地域を育てる教育」の推進」
- ・研究者、市民活動団体共に、簡単な紹介後、ポスターセッション
- ・パネルディスカッション
「青少年と地域のかかわりについて」

タイムスケジュール：

会議室 A,B,C は準備のため 10:00 開場（終了者は随時受付）

12:00 一般参加者受付開始

13:00 開会

参加者紹介

13:15 マツダ財団挨拶（菅蒲田理事長）

13:20 明石先生基調講演

13:30 研究内容紹介（5名）2分/人 ⇒ ポスターセッション A

14:20 市民活動紹介（14団体）1分/団体 ⇒ ポスターセッション B

15:10 市民活動紹介（13団体）1分/団体 ⇒ ポスターセッション C

16:00 パネルディスカッション（司会：長岡造形大学准教授 板垣順平 様）

17:00 閉会

パネリスト

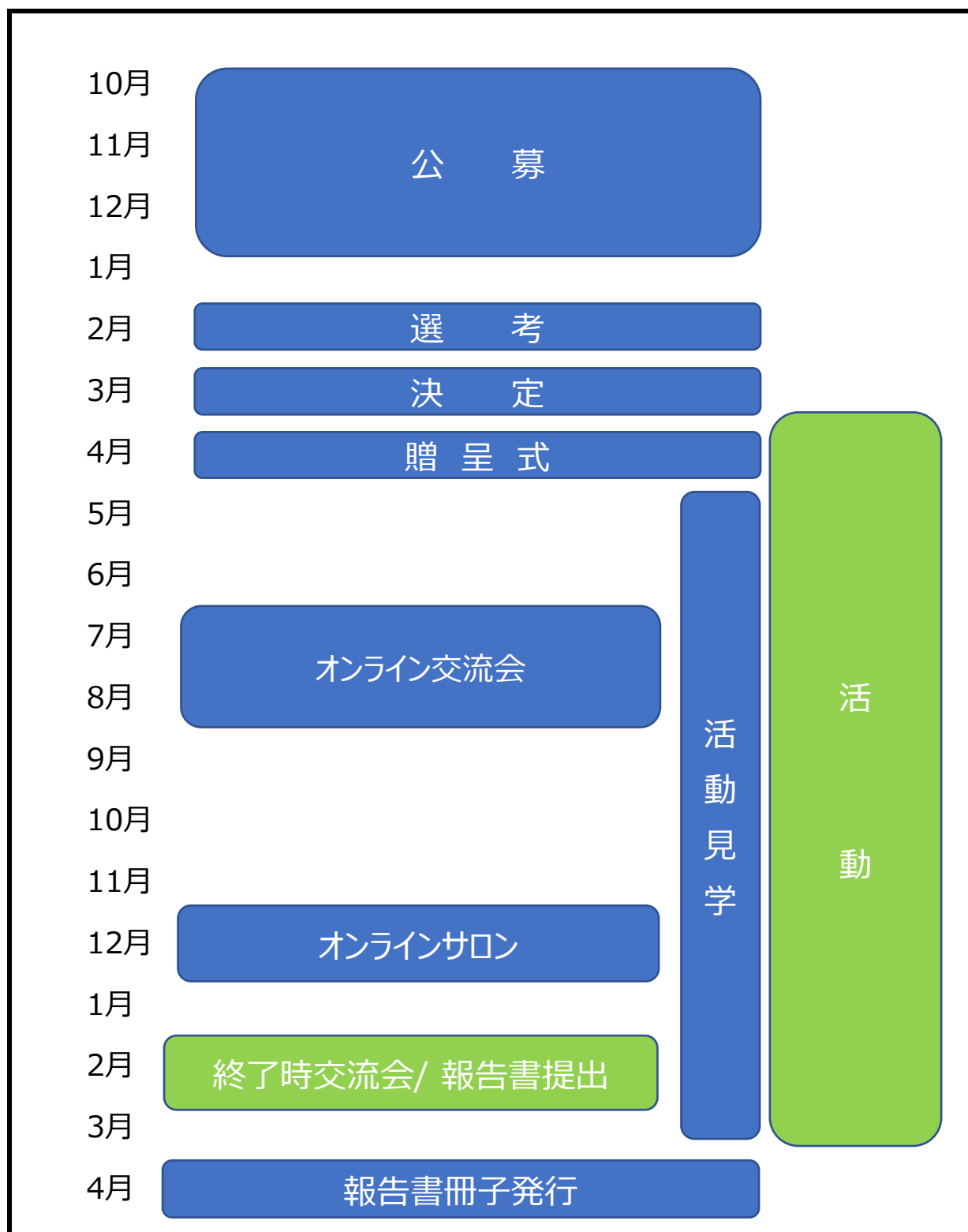
広島市 このまちにくらしたいプロジェクト 河原 正生 様

福山市 軀のくらし診療所 平岩 千尋 様

山口市 山口トプランナープロジェクト（Y T P） 柿沼 瑞穂 様

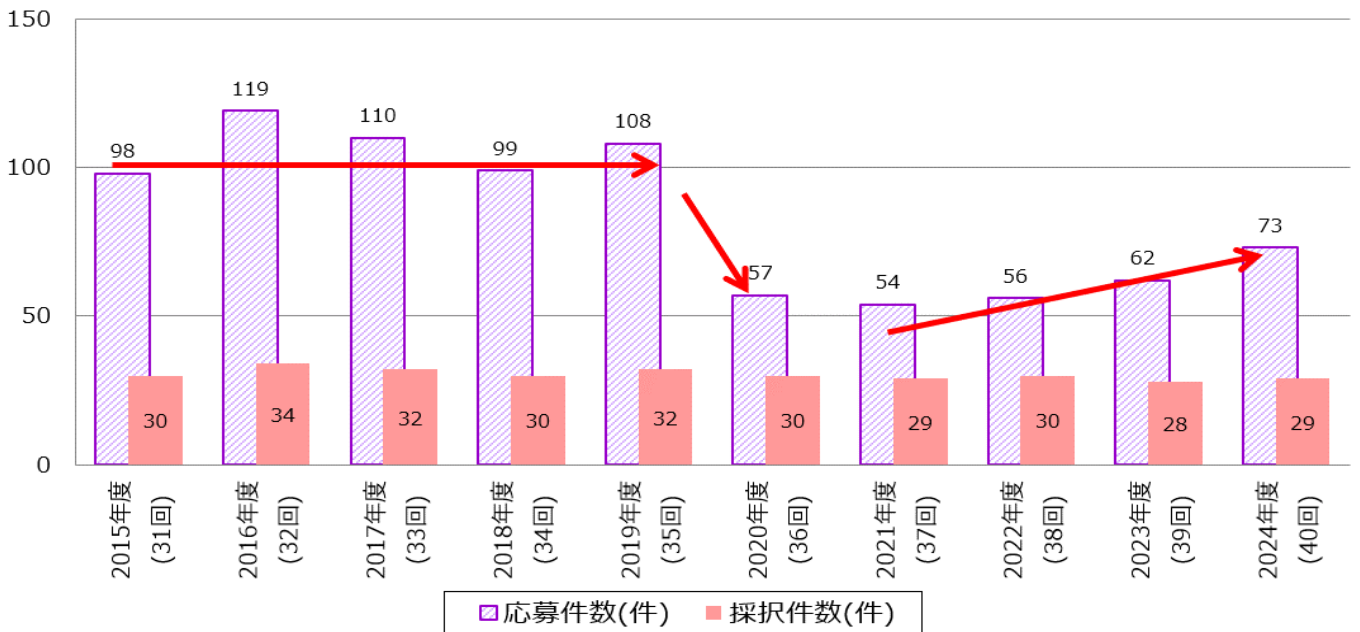


7. 公募～報告書冊子発行までの流れ

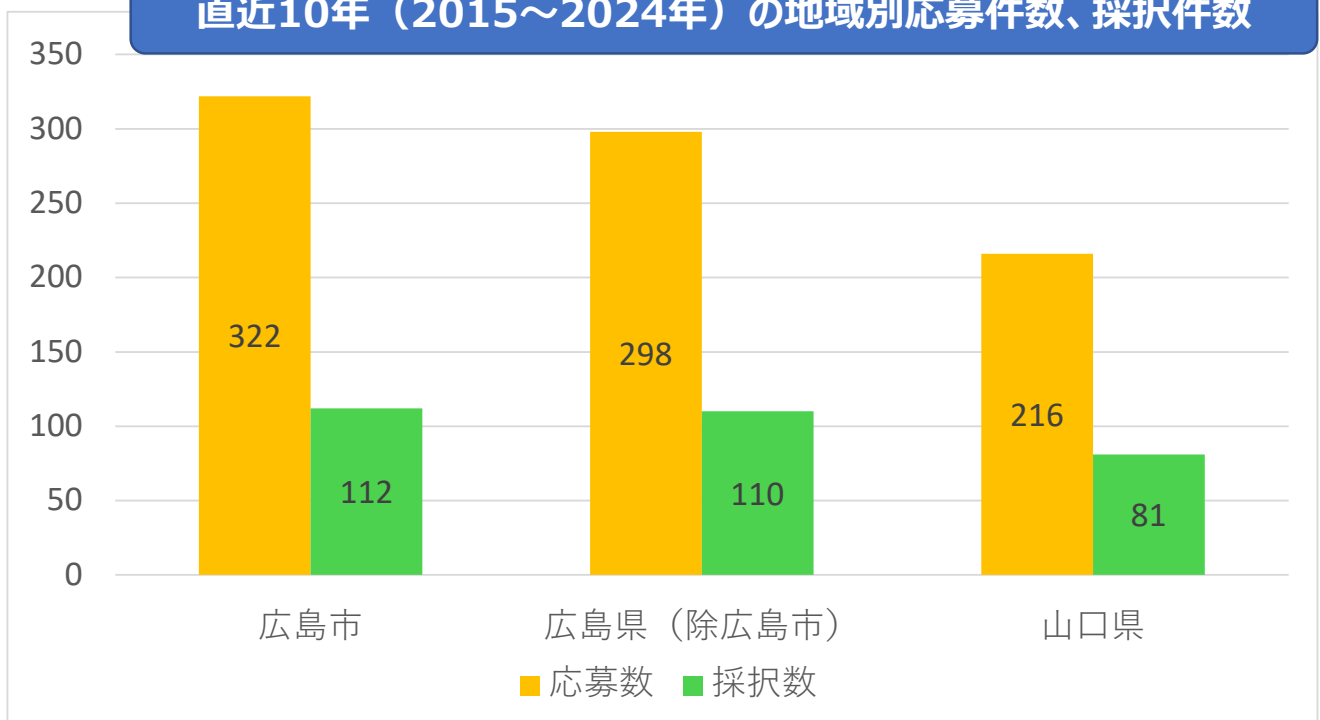


8. 応募&採択に関するデータ

直近10年（2015～2024年）の応募件数、採択件数の推移



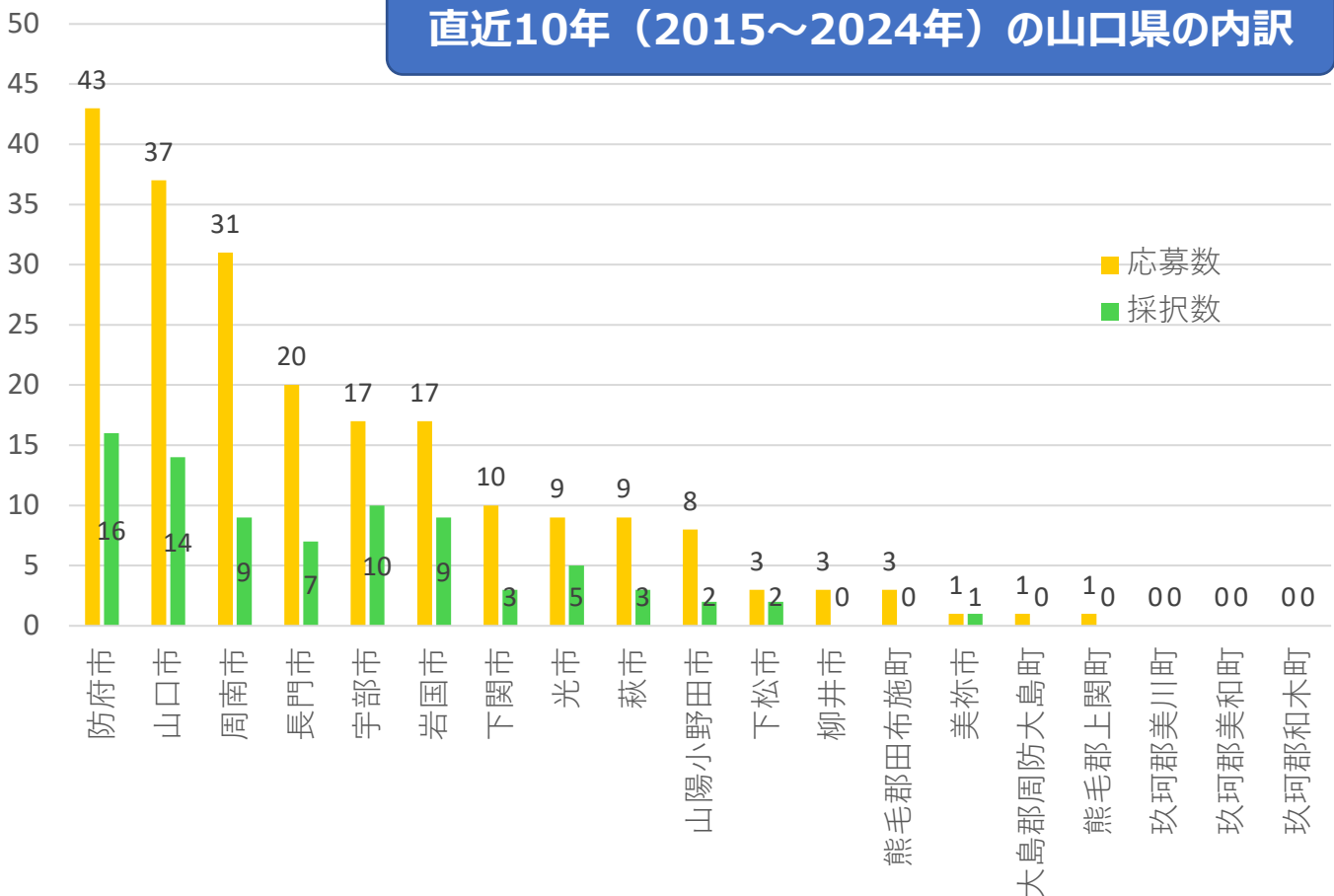
直近10年（2015～2024年）の地域別応募件数、採択件数



直近10年（2015～2024年）の広島県 （除広島市）の内訳



直近10年（2015～2024年）の山口県の内訳



マツダ財団の活動内容等詳細につきましては
当財団のホームページをご覧ください。
<https://mzaidan.mazda.co.jp>



マツダ財団支援 第39回（2023年度）市民活動報告書

発行者 公益財団法人 マツダ財団
〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3 - 1
マツダ(株)内
電話 082-285-4611
FAX 082-285-4612
e-mail mzaidan.sj@mazda.co.jp

発行日 2024年4月

印刷 マツダエース(株)

公益財団法人マツダ財団